

近衛師團戰鬥詳報

從明治廿八年七月十日
至同年七月廿三日
臺灣北部ニ於ケル

0378



0379

第三號

戰鬪詳報

台灣總督府

陸軍局參謀部

七
八

0380

戰鬪詳報第三號目錄

新竹附近戰鬪詳報

(七月十日)

枝隊長 阪井大佐

龜崙附近戰鬪詳報

(十三日)

枝隊長 内藤大佐

打類坑附近戰鬪詳報

(十四日)

枝隊長 内藤大佐

龜崙附近戰鬪詳報

(十五日)

枝隊長 内藤大佐

海山口桃子園間戰鬪詳報

(自十七日至十七日)

枝隊長 内藤大佐

龍潭坡系銅羅塞附近戰鬪詳報

五升

0381

（自今に至るまで）
附報告
新竹附近戦闘詳報
（三三〇日）

枝隊長 山根少将

枝隊長 段井大佐

0382

指揮官阪井大佐

七月十日新竹附近戦闘詳報

新竹市團司令部

0383

正司

新竹附近

戰聞詳報

七月十日

午前四時五十分三四、砲聲ヲ聞ク、枝隊本部風紀衛兵ノ
報ニ曰ク、今砲彈来リ、衛兵所迄傍屋上ニ命中シ、大穴ヲ
穿テ、凡石ヲ飛散セリト（砲彈ヲ獲タルニ六センチノクルパナリ）暫クモテ
東門衛兵ヨリ、報ニ砲聲及銃聲ヲモト方（東方）ニ聞ク
然レモ砲兵ノ位置不明ナリト、於此致テ報ヲ傳ヘ、午前五時ニ
十公軍強ト共ニ南門上ニ至ル、敵兵約三四百人、大旗ヲ翻
シ、停車場東南山上ヨリ砲撃ス、其左右ニ掩護、此キ
モアリヨリ多数ノ歩兵ヲ配置ス

0385

全五時至全拉隊、部署左、如左

西門外前哨

第三中隊、約一隊半

其、山、方、向、土、官、領、家、中

第二中隊、約一隊半

其、西、南、北、四、門、及、傳、車、場、衛、兵

第一中隊

東門內集合

第四中隊

南門內集合

第三、第八中隊

左

山砲中隊

左

機關砲隊

左

騎兵少隊

宿營地、在、準備

衛生隊

南門樓上(位置)

拉隊長、大隊長、砲兵隊長、機關砲隊長

0386

乙

山ノ下

午前七時片候、報に敵一部停車場東方村落に在る
 二個、石造家屋に依り敵右羽翼の據点トナス如シト
 全七時三十分に至る、敵攻撃に果し、目撃者頗る躊躇する
 も、如し依り各同、撃破スル策に決し攻撃命令（口演）
 ヲ下ス
 前面、敵に攻撃手口トス
 前田少佐、第四中隊指揮に敵、砲兵陣地
 向て攻撃スヘシ
 但し傳騎三名ヲ附ス
 砲兵中隊、南門、東方畑地機関砲隊、砲兵、右
 方ニ散列ヲ布キ攻撃ヲ援助スヘシ

0387

三

第三中隊より一隊ヲ攻懸手隊ノ右翼山上ニ出シ之ヲ援助セヨ他ノ一隊ヲ以テ砲兵ヲ護衛セヨ

予ハ南門ニ在リ

全午前十時四十分大隊長前田歩兵少佐攻懸手動作左ノ如シ

全時新井城外東南端ニ在リ左ノ隊ヲ下ス(時ニ敵ハ山上ニ據堡ヲ造リ四銃ヲ張り大間隔ニ立タリ)

敵ハ東方ニ其主力ヲ四通クモノ如シ

第四中隊ハ敵ノ左翼ヲ攻懸手ニ其側背ニ出ルヲ勉ムヘシ

第八中隊ハ第二線トナシ

7

7
細

第ハ中隊ヲ一カ隊ヲ鉄道線路に出シ第四中隊
前進ヲ援助スルニ

此頃砲兵已ニ放列ヲ布ケリ

第四中隊ハ第三カ隊ヲ第一線トシ第一第二カ隊ヲ
援隊トシ前進ス敵ハ全線ハ高地ヲ猛烈ニ射撃
シ攻撃隊ハ前面及側面射撃ヲ受ケ前進難ル困

難ナリ

砲兵ハ射撃ヲ開始シ前進隊ヲ援助ス

第ハ中隊ハ援助カ隊ハ其前面ニ第四中隊ハ敵兵線
アリテ援助ハ目的ヲ達スル能ハス即チ右方ニ集合ス依
其ニカ隊ヲ第四中隊右方ハ高地ニ出ス

江行中隊司令官

0389

四

五 八時二十分砲兵中隊長へ左、命令を下す

砲兵一少隊、攻堅隊に属し前田少佐、指揮を受ける

へこ

八時廿五分第一線山脚に達し第四中隊、第一第二少隊、右
方高地、第八中隊、二少隊及第四中隊、第三少隊、前面、
高地を占領ス敵は東より南方に向き退却ス此時大隊
長、猶第八中隊、一少隊に豫備トシテ有セリ

八時停車場附近隊(古川中尉)より東方に敵、砲兵及
歩兵見え、報アリ

八時西門外北哨方向、濃霧、銃聲ヲ聞ク暫クシテ前哨
(川崎中尉)より、報ニ

0390

4

廿二

カ

敵、香山庄南方山脈、中腹ニ三四十名一隊トナリテ山脈

ニ沿テ我ニ向ヒ前進スルヲ見ル

派遣ノ片候、未帰還セサルヲ以テ詳報ヲ得ス

中隊、山前哨ノ位置ニアリ下宿、独立市ノ哨ノ位置ニ

移ル

敵、前進セルハ独立下士哨ノ方向ヲ指スヲ以テ兵卒十名ヲ

増加セリ

左ハ時々山前哨より、報ニ下士哨、山前哨約三百名ニ在ル

森林ニ敵兵約七八十名ヲ襲其後續隊ハ森林ノ為ニ

ニ公ラズト

公ハ時々山前哨より、報ニ山前哨ニ敵兵約二三百名

江戸市関町分書

2

0391

見
ル

今八時四十分、第四中隊、一十隊、第八中隊、二カ隊、第一、高地線、進、豫備、第九中隊、一カ隊、南方、山谷、進、コシム

今九時十分、第四中隊、第一、第二カ隊、敵、砲兵陣地、右、砲兵、敵、砲兵、據、其、主、力、東方、退却、セリ

今九時三十分、左、隊、全、下、ス

有馬大尉、第一中隊、殘、全、率、西門外、前、哨、に、率、隊、敵、當、レ、但、砲、二、門、に、付、ス

今時砲兵中隊、左、隊、全、下、ス

砲兵、第一中隊、西門外、前、哨、に、率、有馬大尉、指揮、ス、後

0392

ト

クヘシ

全時隊四中隊、二分隊ヲ敵ノ擁護ニ残シ其殘兵
及第ハ中隊ヲ一軒家附近ニ集合セシメ又第四中隊ヨリ
東方及南方ニ追撃隊トシテ出カシム

前田中隊ヲ村隊長ニ砲兵一隊ヲ差遣セラシメテ請求
アリシ砲兵其前既ニ村隊長ノ隊ヲ後ケ見地ニ到着
セシ頃ナリシ

全九時四十分第ハ中隊ヲ右方高地ニ出デタル中村中隊
ノ報ヲ敵兵約五百名我右方ニ迂回スト
此際已ニ西方ニ當リ銃聲ヲ聞ケリ依テ第ハ中隊長ヲ
シテ一隊ヲ率テ中村中隊ノ方角ニ進マシム

全時隊四中隊

新

六

0393

此時大隊長ノ手申ニアルモハ葦中隊、一隊、葦三中隊、
ヲ砲兵機銃多ク隨行シタル中見志ヲ尉、二分隊、乃
砲兵ヲ隊ナリ

全九時五十分東方ニ向テ敵ヲ追撃ス

全十時追撃中隊ニ左ノ木中尉ノ報ニ曰ク數百ノ敵退
却シテ水仙峯乃金山面ノ高地ニ投ルト

全十時有馬大尉ヨリ報ニ

敵約百名東南方高地ヲ東ニ向テ前進ス

第一中隊ハ哨ノ位置ニ在テ西南方ヲ警戒ス

全十時五十分金山面ヲ距ル約千七百米突ニ立リテ布ク然レモ
敵ハ漸々高地上ニ退却シ山腹ヲ射距離外ニ出ルヲ

世古

以三度三陣地ヲ建ノ約千二百米ニ近ク敵ハ砲撃ヲ受ケル
蜂ノ子ノ如ク散乱敗走セリ

全十時十分前哨(川崎中尉)ヨリ報ニ

敵ハ香山港方向ニ退却アリ其兵数約三百人

午前九時十分前哨ヲ受シ今尚ホ追蹙中ナリ

全十時三十分古川中尉(墓地)ニテ全軍ヲ呼フ

砲兵一少隊ニ歩兵若干ヲ差遣スキニ依リ之ヲ協力シテ

攻撃ス可シ

尚ホ監視ヲ嚴重ニ可シ

全十時四十分第四中隊一少隊ヲシテ追撃金山面東

方高地ニ至ル敵ハ堅固ノ據堡ヲ築キ退却セリ

丘背巾團司令部

0395

追撃の隊は若干、残兵を拂て火令上、敵舎ヲ焼キテ
帰ル

又中貴を少尉、率え擁護隊を火令下、人家ヲ搜索
せし火令下ニアル兵令（觀音堂）は、第四中隊、斥候之ヲ
燒ケリ此兵營は、砲架閉鎖器ヲ拂て四十七アリト
令十一時た、年令ヲ第四中隊ニ下ス

敵は東方及南方ニ散乱退却セリ

第四中隊は我砲兵陣地附近に在り東方ヲ監視スヘシ
予は砲兵及殘兵ノ隊ヲ以テ高地、北側ニ沿ヒ東方ニ帰
還ス

右ノ隊令ヲ實行行セントスルヤ 觀音堂東方高地ニ敵兵

江司

據ルヲ見ル依テ砲撃ヲ始ム然レモ巨砲遠キヲ以テ再テ陣地ヲ進ム

左十一時十五分前田方佐へ九ノ通知(筆記)ヲ出ス

西門外前哨ノ前方下士哨ニ二百名斗リ敵兵未だ襲我兵

之ヲ撃退ス

又敵ノ一部ハ独立下士哨ノ西方山上ヲ東進シ山上ニ砲兵

ヲ出シ我前哨ニ対シ發射ス

有馬大尉ハ約一カ隊第ニ歩兵及砲兵一カ隊ヲ指揮

シ前哨ヲ應援シアリ

貴官ハ其方面ノ敵ヲ適宜ニ追蹙セバ南門ニ向ヒ歸

還スヘシ

江戸市開町ノ中

0397

傳車場東方村落に敵、本部隊家屋防衛ヲナシアリ

古川中尉、微弱ノ兵ヲ以テ之ヲ包圍シアリ

左十時廿五分古川中尉、た、兵をラ下ス

先刻砲兵、歩兵若干隊、其地ニ出ス（キ旨申置キタ

リシ）前哨線、前方ニ敵、砲兵顯レ又、独立下士哨、

兵西方ニ敵、砲兵顯ル、今暫時砲兵ヲ其地ニ

向ハシムル、能ハス（二門、前田中佐、屬シアリ）

左十時三十分前哨川崎中尉、報ニ

敵、下士哨西方千二百米、小山嶺ニ旗二本ヲ立テ百名余

群リテ防衛、準備ヲナスモノ、如シ

下士哨、増加兵ヲ得テ討陣セリ

4

カ内

九

他、兵ヲ差遣シ之ヲ攻撃セシメテ却却セシメ

全十一時四十分身ハ中隊吉本中隊ヲシテ其敵ヲ攻撃セシメ

セシメ僅サ、敵ハ高地上、家屋ニ拠ルヲ以テ之ヲ攻撃セシメ

不利ナルヲ察シテ午所、時十分攻撃ヲ停止シ帰還セシメ

又第三中隊廣元中隊曹ヲシテ水仙堂方向ヲ捜索セシメ

全十一時五十分有馬大尉ヲテ、報告ヲ受ケ

約二百四十、敵ハ南方ニ向ヒ退却セシモノ、如シ

敵ハ砲兵、下士哨、西方約千五百米ニ位置シ我ニ向テ五六

發ヲ發射ス

未幾、敵兵ニ我砲撃ヲ受ケテ其手退セラル、此候ヲ知シテ捜

索中ナリ

全南軍司令部

0399

第一中隊は砲兵、南に此地に在る守備を

午後三時三十分迄、命令を下す

予は停車場方向に帰還す

第四中隊は其一を隊として停車場南方高

地（軒家附近）に二隊哨を配布し東方及南方に警戒す

（一）

午後一時一軒家に着し校隊長に報告す

此時弾薬二箱を補充す

第四中隊は通しに二隊哨を配布し他は午後五時南門に帰

還す

午後一時頃、第三中隊より敵大羽黒を派遣せし十隊が諸

9

方向に出る片戻帰還ス

全一時三十分頃、第八中隊、二個小隊及砲兵小隊（前哨方）モ

帰還ス

全一時四十分、全隊全下ス

砲兵小隊及第三中隊、一隊、停車場ニ至リ、全所東

方村ニ沿テ攻撃ニ参進ス

全四時、第八中隊、一少隊、掘目、掘目ニ至リ、停車場ニ差遣ス

全五時、至ルニ停車場方面、攻撃、敵方ニ至リ、技隊長ハ大

野歩兵大尉ヲ南門ニ残シ、直ニ停車場東方草地ニ至ル

全五時三十分、六時、至ル、間歩砲攻撃、最も猛烈ニシテ

若干時、後々全隊、此處ヲ奪領ス

少部

0401

騎兵十隊、當日纏々偵察等ニ使用ス、曳ラ小
斥候乃傳騎トシテ終日各所ニ使用アリ

柱隊長 阪井重孝

二万五千

0402

西門外前哨方面に於ける戦況（第一、第二中隊）

七月十日

午前八時頃有馬大尉、西門に到着す

全時頃前哨方面に當り頻に銃聲を聞く

全九時四十分戸川少尉、枝隊長、余に依り南門守備隊より

兵隊十八名を率へ来る

全十時十分西門に若干の守備兵を残し其他を率へ前哨に

位置する敵の前哨、西南約二百米に在る高地にありし時々

集散す我砲兵との向を射撃スル敵も亦高地より脚より

榴弾一發を放ち其彈丸は我砲兵陣地に後方約百米の処に

引合

土

0403

落下ス

五時五十分敵西南方九ッ千八百米ノ高地ヲ前進シテ旗幟ヲ翻シ我砲兵ニ向ヒ砲撃ヲ開始ス(榴弾)我砲兵モ亦之ニ應射ス敵頑固退却スルヲ快ニ中隊長(有馬大尉)ハ戸川少尉ニ命ジ中隊ノ残余三十名許リヲ以テ一齊射撃ヲ行ハシメ尚砲兵モ亦快力ニテ發射ス十一時三十分敵兵敗退西方ニ向テ退却ス直ニ片候ヲ計リ高地ニ派遣シ追蹙セシメ敵兵遠ク逃走シテ已ニ隻形ヲシ

五時五十分陣地ヲ引揚ケ西門ニ歸リ午ヲ待ツ

陸軍歩兵大尉 有馬純日

二ノ四

0404

戦況詳報

七月十日 第四旅団砲隊戦況

午前七時三十分枝隊長、命令より南門外高地より敵退路ヲ脅威シ且歩兵ノ前進ヲ擁護ス目的ヲ以テ南門、南方約五百米ニ陣地ヲ撰定シ放列ヲ布置ス時、敵兵漸次退却ヲ始メ我歩兵從テ前進運動ヲ始ム依テ機関砲隊ニ歩兵ノ左側ヲ擁護シテ前進シ我歩兵南門、南方約二千五百米ノ高地ヲ占領スルヤ敵兵二百人許其西方約二千五百米突ノ高地ニ顯ハレ我ニ向テ射撃ス依テ直ニ道路側ニ放列ヲ布置シ之ニ向テ應射シ遂ニ敵ヲ散乱退却セシム

0405

此ニ於テ 戦馬ヲ中止ス時ニ午前十時五十分ナリ

材料ノ破損遊底四何(修理トシ便
用スルヲ得)

第四機関砲隊長 伊藤貞五郎

三々音

0406

停車場附近の戦況

七月十日

一、午前五時東門衛兵増加、年(中隊長)ヲ受ケ兵卒九名ヲ率ヒ東門ニ至ルヤ、第四中隊モ該門守備トシテ既ニ到着シアリ

二、若干時、後敵ハ漸次停車場東方高地及東北方村落ニ増加スルヲ見ル

依テ其情況ニ依リ増加分隊ヲ率ヒ停車場東方高地ニ進ム

三、午前七時頃停車場東北方(番上A点)ニ至ルヤ敵ハ歩

其若干東北方独立家屋（兵營、塹）及墓地ニ掘り
目ツ兵營ニ大砲一門ヲ有シ停車場ニ向テ砲撃セリ兵
營上ニ敵頭一頭ヲ見ル

之ト同時ニ東方村落ノ東端ニ敵、砲兵二門ヲ有シ南門
方向ヲ砲撃セリ且該村落ノ北方ニ敵、歩兵五六十名ヲ
見ル

四十隊（一併分隊）ハ漸次前進スルヤ其地ニ據ル敵、歩兵ニ兵
營ニ退却セリ

隊ヲ更ニ東方村落ニ進ミトスルヤ（B点ニ至ル）兵營（是ニ砲兵居
ニ據ル敵兵類ニ相撃テテニ前進スルニ危嶮ヲ以テ此B
点ニ停止セリ

19

五、若干時、所我歩兵高地（番上ハ点）ヲ占領スルヤ、東方村落
 ニアリシ敵、歩兵及砲兵ニ金山面方向ニ退却アリ
 此際敵、歩兵百名D点高地ニ退却スルヲ見ル
 依テ現時、状況ヲ支隊長ニ報告ス
 六、之ト同時、停車場増加を隊（埋藏地南方ニ在テ
高地敵ト対峙セシム）并ニ中隊ヨ
 リ一斉隊増援セリ
 故ニ小隊、三々分隊トナル
 七、小隊、第四中隊、下士片候ト共ニ兵營ヲ包圍セリ
 午前、時頃、支隊長ヲ九、余令マリ
 砲兵一中隊ニ歩兵若干ヲ差遣ス（キ）依リ、之ト協力シテ
 攻堅ス（シ）

江崎市團司令部

0409

南に監視せし厳密にスレ

（註）出シアルに候テ大、難生アリ

兵營に通スル 乾溝内ニ兵營内ニ向テ百餘名ノ足跡アリ

八年前十一時三十分支隊長ヲ大、余令アリ

先刻砲兵ニ步兵若干ヲ附シ其地ニ出スヘキ旨申置キ

タリシ前哨線ノ前方ニ敵、砲兵顯レ又独立下士哨ノ

兵西方ニ敵、步兵顯ル依テ今暫時砲兵ヲ見地ニ向ハ

シラル能ハス（二門ハ前田少佐ニ属シアリ）

九午二時半頃砲兵一カ隊步兵一カ隊（大塚特務曹長ノ指揮スル一カ隊）ヲ支隊長

ヲ増援セラル

之ト同時、大隊長ヲ若干ノ援助ヲ爲スヘキニヨリ攻勢手ヲ

14

暫時見合ふ（キ）年令来ル

十、若千時、所又隊長より、第八中隊、一ヶ十隊（吉本）ヲ増援セル

午後三時諸隊、其三個（別紙畧番ノ如シ）ノ位置ヲ取り

砲撃ヲ始メタリ

十六、午後三時半頃、敵ノ歩兵十名餘東勢庄方向ニ逃走セリ

之ニ對シ我歩兵部隊、射撃ヲシ殆ト射殺シ尽セリ

十七、午後四時大隊長より左ノ年令アリ

小森ニ砲列ヲ布キ砲撃ヲ援助スル

依テ歩兵部隊、第四ノ位置ヲ取ル

十八、兩砲兵砲撃若千時、所敵歩兵三十名許亦東

勢庄方向ニ逃走セリ依テ之ヲ射撃シ且半數以上ヲ

江崎市團司令部

0411

射殺す

西午市五時頃、高第、中隊、一々小隊（中隊長）ヲ捕獲トシテ
大隊長ヲ差遣セシム

十五午市五時半頃、友隊長並ニ大隊長来着現況ヲ報
告シ、午市大隊長ノ指揮下ニ入ル

十六、若千時、所破撃ヲ止メ、小隊（一併小隊）ハ兵營ニ近キ生藪
ニ至ルヤ、敵兵非常ニ騷シ進ミテ、前庭ニ至ルヤ、敵兵一名
白旗ヲ揚ケ来シリ、依テ之ヲ大隊長ニ送り、小隊ハ兵營ニ
進入セリ

十七、敵ハ大部ハ降伏セリ、依テ之ヲ捕獲セリ、其一部ハ逃走ヲ
謀ル故ニ之ヲ殺ス

戦役新聞ニノ音

0412

小

又他一部、兵營、一隅、倉庫ニ投リ抵抗セリ（上兵
相撃）此時我十隊ハ人員少ク捕虜力、處置ニ困難
（即死）目我同ヲ伺ヒ逃走スルヲ以テ大隊長、他部隊ヲ引
進セラレシメテ請求セリ
又兵營ニ向テ砲撃ヲ重ニ歩兵、射撃ヲ止メラシメテ請
求ス
六、若干時、所大隊副官他中隊、一々十隊ヲ率ヒ兵營前
庭ニ到着シ、依テ捕虜ヲ之ニ渡シ終リ抵抗スル敵、
一部、其供致シ置キ兵營、火ヲ放テ尚宅園ヲセリ
九、午後七時大隊長ヲ在、命令ヲ受ル
兵營、火全部、渡ラ帰還スヘシ

上野市團司令部

山形

主

0413

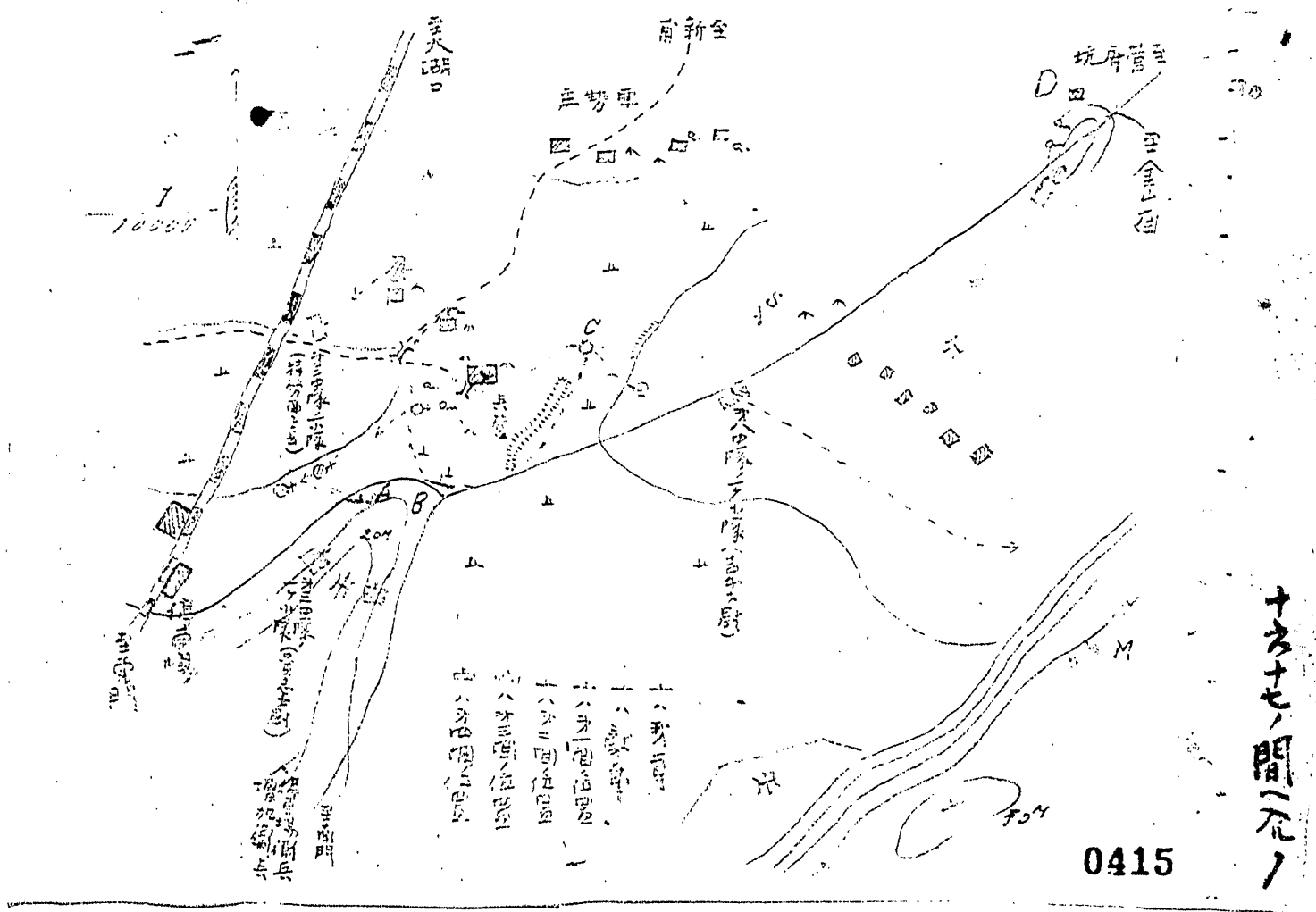
武蔵野園 三ノ音

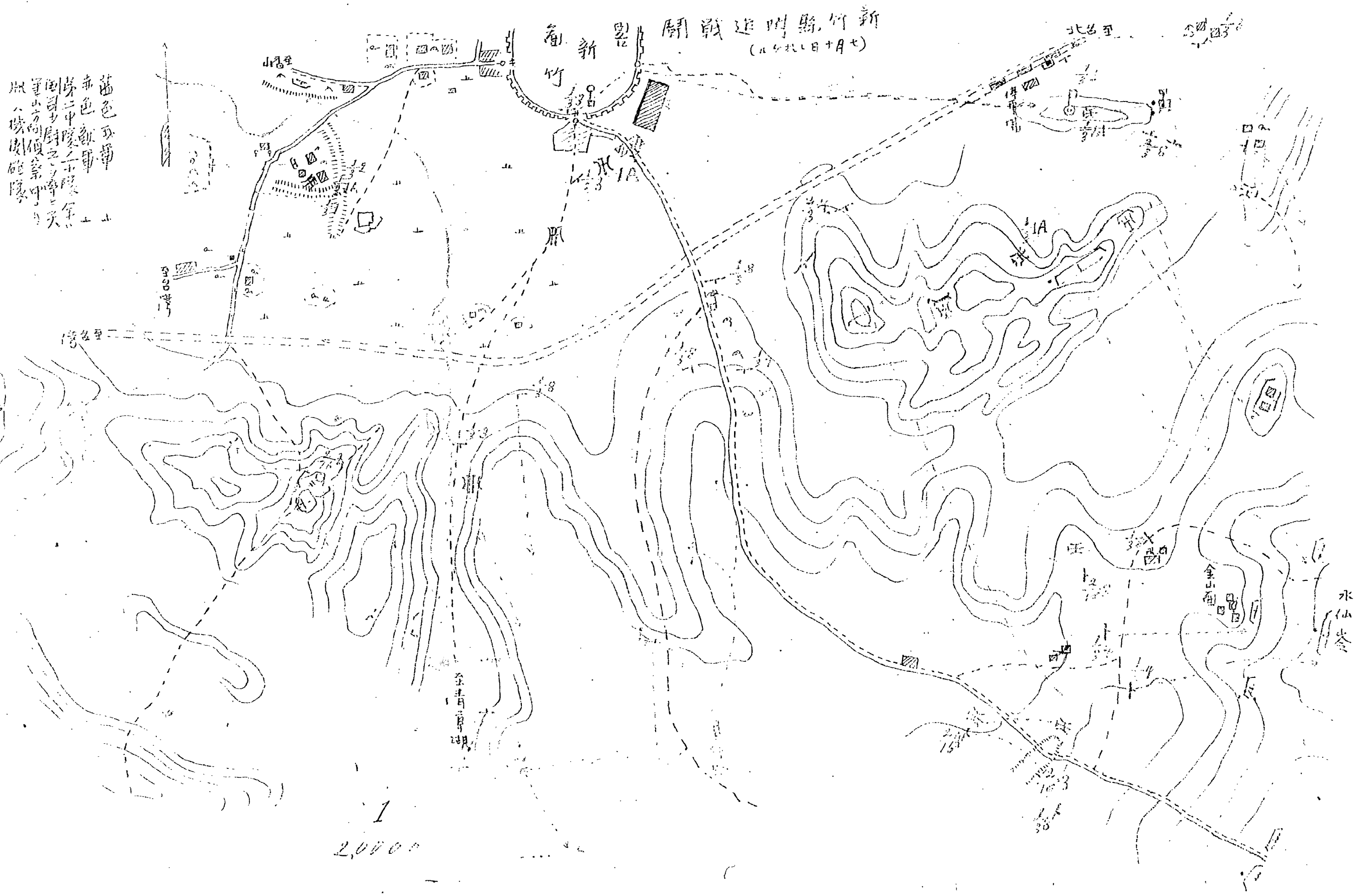
三、午所ハ時大隊長ヲ其大隊並ニ第八中隊ハ直ニ帰
還スヘシトノ命令ヲ受ル所ニ歸還セリ

歩兵中尉 古川竹次郎

武蔵野園 三ノ音

0414





0416

明治二十八年
七月十日
近衛師團死傷表

明治二十八年
七月十日

近衛師團死傷表

國
隊
蹄
鹿
分

將校下士卒馬匹
將校下士卒馬匹
將校下士卒馬匹
將校下士卒馬匹

其二聯咏

四

五

死

傷

失蹤

野戰砲兵聯隊

計

四

六

17

考		備		種類		明治二十八年七月十日		近衛師團鹵獲表		戦闘詳報身		附録	
		銃五十挺ハ燒銃アリ		負數		俘		戦		利			
		彈車場東方兵營内、戦利品直々ニ燒却セシヲ以テ明カラス		一		一		銃		一			
				二		二		彈藥		二			
				一〇〇		一〇〇		糧		一〇〇			
				一三		一三		銃		一三			
				六		六		銃		六			
				一		一		閉鎖器		一			
				四七		四七		竹箒子		四七			
				五		五		頭		五			

0418

明治二十八年
七月十日

近衛師團兵器彈藥損耗表

損失セシ兵器及彈藥數

[illegible]

考 備							
	計						
	七						
	四						
	一						
	三						
	二						
	三						
	六						
	一						
	四						
	四						

0420

指揮官 内藤大佐

七月十三日 龜ヶ嶮附近 戦闘詳報

佐賀市国司文庫

0421

[illegible]

0422

別起

山田

19

奥谷附近

戦闘詳報

七月十三日

午前七時過り、奥谷方向、銃声ヲ聞ク。八時頃至リ、
蓋々盛ナリ。次ニ砲声、如キモノヲ聞ク。暫キニ止ム。
七時三十分左ノ會合ヲ遂メ、隊長ニ此ヲ

貴官ニ奥谷方向、銃声ヲ偵察ス。即刻ニ該
方向ニ中隊ヲ派遣ス。ハシ

午後九時、偵察隊、報告。謂フ。九時半、兵站長、
報曰。敵、打類坑西南方隘口、西山脈ヲ占領シアルヲ
如シ。右ニ海山ヨリ、奥谷方向、糧食運搬、人夫日所

支那軍司令部

0423

此ノ敵襲を受ケ歸来シテノ報アリト云フ九時ノ分弟二天
 隊長ニ出發準備ヲナスヘヨヲ命スナリ時ニ分弟二天
 長ヨリ左ノ報アリ日ク出發準備整頓アリト依テ將ト鬼
 穴前ニ向ヒ出發セシトスルノ際ニ

十時四十分師軍ヨリ左ノ命アリ

貴官ハ鬼穴前方向ノ敵ヲ撃退スルコトヲ勉ムヘシ

今時曩ニ派遣セシ偵察隊ヨリノ報ニ日ク打類西南山

上ノ敵ハ漸次下山シテ我左翼ノ方向ニ前進スルモノ如シ

ト依テ直ニ弟二天隊長ニ左ノ命令ヲ下ス

貴官部下ノ隊ハ海山口守備ニ任シ一隊ハ我左翼

ヲ鬼穴前方向ニ行進セシム可シ

山岸

一中隊偵察隊ノ援隊トシテ鐵道路ヲ行進セシムベシ
 余今ヨリ偵察隊ノ線ニ至ル

十二時五分偵察隊ノ線ニ至ル打麴坑西南狹隘口ニ
 山ト打麴坑西南ト具東南方ニ敵兵展開シ且數約三
 百ト至四百西米屋中尉ニ房六中隊ヲ率ヒ偵察隊トシ
 ラ敵敵ヲ距ル約三百至突ミテ之ト對戦セリ敵情ヲ偵察
 スルニ廣大ノ正面ヲ占領スト至ルニ是ヲ掃蕩スルカ如シ依テ
 七中隊ヲシテ狹隘口ノ北山ヲ占領セシム房七中隊ハ直ニ出發
 セリ

十二時三十分房七中隊ニ捕食ノ山上約三分ニテ立リシ敵
 兵ヨリ射撃ヲ受ケ之ニ對シ一齊射撃ヲ施行スル之ト至時

と第六中隊ヲシテ前面ノ敵ヲ攻撃セシム敵ハ漸次打頼坑
西南ニ歩ミ防禦線ニシテ退却ス
打頼坑南方山麓ニ至リ水田ノ條路ヲ利用シ散兵ニ配
布シ頑固ニ抵抗セリ依テ西果屋中尉ハ四ヶ分隊ヲ以テ敵ノ
右翼ニ迫リ藤岡中尉ハ五ヶ分隊ヲ以テ前面ノ敵ヲ射撃セリ
對峙約十五分西果屋中尉ハ漸次敵ノ右翼ニ迫リシヲ以
テ遂ニ敵ハ友軍能ハス五人ノ力至十人ハ少シテ且ハ大部
打頼坑南方山頂ヲ越シ逃走セリ時ニ午後二時三十分
ナリ依テ第六中隊ハ且ハ占領地ニ於テ今夜西南方ニ對シ
警戒ヲ戒スヘキヲ命ジ且ハ糧食ノ幾分ハ鐵道
線路上ニ放棄セラル報告ヲ得第六中隊ヲシテ監視セシム尚

21

朝食

附近村落に於て掠奪せしむる糧食ヲ搜索せしめて精末
日ニ俵・梅子・三斗樽ヲ獲見せり

今三時頃中隊長より左ノ報アリ

一山上に在りし敵は北方ノ山脈ニ沿て東北西ノ方向ニ退却せり
其兵力は百に充たヌ又其附近ノ村落ニ四五名ノ敗兵ヲ
見たり

二中隊は今より約一時三十分間北山ヲ占領し異状ヲケル平原
に設置(第一中隊は位置)ニ還ル積ナリ

三第一中隊は山脚ノ村落ヲ搜索後復に四目ニ還ルナリ

中隊ナリ

今三時半頃中隊長ハ左ノ命令ヲ下ス

一南軍司令部ナリ

0427

山麓多村落敵兵約百名出現我彈藥貯庫に向テ
 射撃ヲ開始シ依テ彈藥ヲ護衛シ鐵道線ニ依リテ
 射撃ス且中隊ノ一隊幸ヒ且附近ニアリテ以テ同鐵道
 線路ニ依リ射撃マセシム
 午前十分中隊ノ二隊ヲ敵ノ右翼ニ迂回セシム今午時
 敵兵遂ニ西北方ノ山上ニ退却セリ然レバ時既ニ彈藥貯
 庫ニ土地殊ニ不明ナルヲ以テ之ヲ追撃スルヲ得ス依テ中
 隊ノ一隊線路上ト地ノ一隊ヲ狹隘ト西北方ノ山上等
 ヲ占領セシ所ニ於テ警戒セシム
 七時五十分海山口西端ニ於テ左ノ報告ヲ得（五站支隊長ヨリ報）
 敵ニ元來咄嗟ノ希望ニアラスシテ二日前より海山口・栗山

江崎市團司令部

少烟

三三

0429

西端より敵軍を企望せり。如く故に我兵は西方に
出で敵と對戦。午後五時前後に於て海山口東
方ノ電線一ヶ所を切つた。加之午後四時過きに敵軍は
海山口北方山路を沿つて内地東方に來りし。

附近村落に土民は之を慮し一集團を組織せし。如く然し夜に
至れば敵軍は攻勢をとりし。午後七時出でし。夜中暗黒
ナルヲテ遂に其集團は自由を見出さず能は。

午後八時三十分第一中隊、第二中隊、第三中隊、海山
口に招致し第五中隊と共に兵站支隊を海山口に準備し。王
月九時半日暮る。電報を發し第五中隊松本少尉に
り左の報あり。

23

大蛇

二十四

一、龜岩ノ守備隊、桃仔園方向、引揚ケタル由ナリ

二、糧食、鐵道線路上、米四五十俵、副食物サ許アルヲ

見ル

三、龜岩ノ桃仔園方向、敵情詳ナシ

四、鐵道ノ岸ニ中隊曲視兵、西方約五百米、突ニアル橋梁

(巾十米、突斗)ニ於テ、西線側ニ架セル木材ヲ取除キアリ然レモ

鐵線下枕材、現存ニ、汽車通行ニ妨ケシ、東方龜岩

ノ約五百米、突ニ於テ、前々斷、破壊アリ、煙信線ハ龜

岩近傍ニ悉ク斷、電線ハ柱ニ挂^取除キアリ

五、敵情、岸ニ中隊曲視兵、西方約四百米、突ニ進ミ、片左前

方ニ百米、突ニ処リ、敵兵約三千名、我ニ向テ射撃ナリ、且

0431

右方より於て殆ど絶間なく敵兵を見我兵之應射
 せし敵は散乱して敗走り豊岩の前方（東方）約五
 六百米矣。位置は於て右前方約三四百米矣。山上に敵
 兵約二百名ヲ見ル

地形道路右方は饒ヶ山ニシテ道路は山腹より傾斜余
 程多し。テ食ル。困難なり。右方に点々人衆下方、
 小川あり。饒ヶ道路は道行あり。具右方小川ニ至リテ山
 脈連続豊岩前ニ至ル

何崎々然に命を乞ふ。第一中隊ヲ率ヒテ海山口西南ニ行進ス
 途中第二中隊派遣せし古弘中尉ノ率ユル一隊ニ遭遇
 し之ト合シテ前進ヲ継続し打懸坑南方に達ス。頃敵兵三

市

24

四十名ヲ擊退シ更ニ一部落ニ敵兵約百名銃眼ヲ有スル壘
壁ヲ以テ圍ラセリ天家屋ニ拠ル目見ル處ニ中隊ノ中隊ト
中隊ノ中隊ト之ヲ攻撃セシトシ約四百名突ニ於テ射撃
ヲ開略シ水田ヲ踏歩シテ進ミ壁下ニ至リ大ヲ材落ニ致シ然
レ風烈シク雨強ク加フル壁高ク堅固ニシテ且ツ多數銃眼
ヲ有スルテ強テ之ヲ陷セント欲スハ成ニ難キニ非ラズモ損害
大ナルヲ屬リ恒陰ニ乘シテ兵ヲ抜クニ堪ヒ且ツ其隙ニ在テ夜ヲ
俟タシメ暗ニ乘シテ兵ヲ集合シテ後中隊海山トシ集合ス

江戸市川町

五

五

0433

通雅

道德經圖

0434

近衛師團兵器彈藥損耗表

戰鬪詳報第一號附錄

天

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

指揮官内藤大佐

七月十四日打類坑附近戦時詳報

近衛市開司令部

0438

[illegible]

通律自國

0439

27

別記

打頼坑附近

留野詳報

七月十四日

第六、第七中隊、依然其位置ニ在テ西南方ヲ警戒セシメ、海山口西上方山上、敵ヲ驅逐セシメ、午前九時、第二大隊長ニ命令ヲ下シ、且要員官ノ一中隊（第五中隊之付ス）ヲ第七中隊北方高地、敵ヲ撃撃攘セシム。九時、第三機関砲、第四隊野津、中尉之ヲ引降シ、其後、依テ其四門、海山口西端、砲地ニ敵列ヲ布カシム。十時、第三要員中尉（第六中隊長代理）、正面及左側面、敵兵約二百名、襲撃セシメ、全隊之ヲ迎撃シ

山村

0440

其大部は南方に逃走す

十時野戦砲兵、砲二門、小久保少佐之ヲ引率シテ

東ル依テ之ヲ海山、西端畑地ニ陣地ヲ撰定セシ、第五

中隊ヲ援助セシム

全時第五中隊ハ運動ヲ起シ水田中ヲ推斷シ山林

ノ村落ヲ入りシ時敵兵約三千名ニ遭遇シ之ヲ撃

攘シテ山上ニ登ル時三十一時四十分ヲ

十二時五十分砲兵ハ砲撃ヲ開始セリ敵ハ山上ニ群集セシ

此砲撃ヲ以テ敵ハ散乱セシ、如ク漸ク敵名ヲ見ルノミナリシ

一時十五分第五中隊ハ全ク山上ニ登リ敵ヲ駆逐シ漸次

西方ニ行進シ敵ハ本據地ニ退却高山ヲ占領ス是ハ

28

今時：第六中隊、一少隊、年し打類坑西南方（第六中
隊：対る山）、高地、敵情ヲ偵察スル其目的の敵、
其力ヲ偵察スルニ在リ

二時三十分吉弘中尉、山上約七分迄至リ、此射撃ヲ
受ル此時機関砲山門ヲ以テ之ヲ援助セシメ巨砲遠火
ナルヲ効力ナシ

三時五十分吉弘中尉、敵砲ヲ避ケ左方ニ轉ジ第六
中隊正面、出ラ此中隊、対る敵、背面ヲ射撃セリ如
シト今時、機関砲、此敵、左翼ニ対シ射撃ヲ開始
セリ敵三方ヲ射撃シ受ケ遂ニ友ニ能クシテ南方ニ
潰走セリ因テ第六中隊、正面漸次敵影ヲ見ス此機

庄司

手札

0442

砲、砲撃の目録を効力アリシ

三時五十分吉弘中尉の再々右方ニ轉じ頂上ニ登ル正南
 及左側ニ敵、射撃ヲ受ク其數西面合シテ約百四五
 十人暫時射撃シテ下山シ本隊ニ合サリ時五時五分ナリ
 依リ身中隊ハ依然トシテ旧位置ニ留メ戒セシム此ノ時
 全ク南北ノ敵ハ撃退シ拙リ西方ノ敵ハ依然タリ敵ノ
 退路ハ度々ミテ一定セリシモ且テ大部ハ西南方ニ退却サ
 五時十分身中隊ハ占領地ニ一カ隊ヲ殘シ監視セシム年ハ
 下山ス

本日打撃坑南方(栗屋村附近)及身中隊ノ占
 領地タル山上ニ敵兵ト砲ニ射撃ヲ交換アリ就中身

七中隊、古領山に敵兵甚多、烈しく射撃せしむ。居ては敵を襲ふ所の角力あり、只時々激烈に射撃するのみ。而面兵夜に至り射撃を止む。

打類坑東南に部落あり、敵兵十若う二十出沒し、五時過三約百五十斗集合せしむ。報あり、依り充分警戒せしむ。遂に敵兵を襲ふ。西より、当海山口南西北、方向に僅少、敵兵絶たず出沒するは、敵に大損害ありと看す。

昔午に四時過海山口西南端、烟地、砲列を轉じ、昨午の第一中隊、苦戦せし敵、防禦家屋に向て砲撃を開始。此砲撃に應じ、功あり。該家屋ありし敵兵約百餘、駐止不能、退き、西より、向て潰れて去る。

70

備考		種類		明治二十八年 七月十四日		戦闘詳報身		近衛師團鹵獲表		號附録	
	負數	屈分	將校	俘	虜	戦	利	銃	砲	彈藥	糧秣
			下士					貨幣			
			馬匹								
	五										
	一五〇										
	四〇〇 小銭 文										
	二										
	一										
	五										

0446

19.

明治二十八年
七月五日
近衛師團兵器彈藥損耗表

近衛師團兵器彈藥損耗表

0447

考 備								
	計							
	五 七							
	三 二							
	六							
	一							

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

指揮官内藤大佐

七月十五日龜谷附近戰詳報

近衛市團司令部

0450

99

別表

東山命附近

戦闘詳報

七月十五日

七月十五日午後九時左ノ年ニテセリ且要害

第三大隊ノ中隊ニ身七中隊ノ占領地ニ高地より右側漸

より砲火ニ向テ敵ヲ攻撃スヘシ

後備歩兵身一聯隊第三大隊ノ中隊ニ近漸歩兵身四聯隊

第三大隊ノ中隊ノ左側漸より身六中隊ノ占領地西南方

高地より砲火ニ向テ攻撃スヘシ

身六中隊ノ三隊ニ其位置ニ在テ西南方ニ對シ我左側ヲ警戒

戒スヘシ

近衛市團司令部

0452

第五中隊ノ下隊、且位置ヲ在テ北方ニ對シ、我右側ヲ警戒スヘシ

第五中隊ノ下隊ト機関砲四門、海山ニ守備ト仕ス

予ニ本隊ヲ以テ鐵道線路上ヲ行進ス

各隊明十五日午前二時運動ヲ開始スヘシ

十五日午前二時各隊、昨夜ノ部署ニ依リ運動ヲ開始シ、別

ニ砲兵ヲ以テ第五中隊ト第七中隊ノ台領地中間ニテ伏匿

シ鐵道ノ北方ニ放列ヲ布カシ、左側漸ク登山ヲ掩護セシ

メジストス（昨日若松中尉偵察トシテ登山セシハ敵ノ群集セシ地点ヲ

砲撃スル所ナリ）

七時右側漸ク山上ニ行進ヲ初ム

94

七時半分左側漸運動ヲ開始ス

八時五分砲兵放列ヲ布ク

八時頃右側漸小敵敵金遇之レテ撃退シテ行進ヲ

継続セリ

九時左側漸全ク山頂登リテ十数ノ敵ニ會シ之ヲ駆逐

シ全ク行進ヲ継続セリ故に砲兵ノ援助ニ因テ全ク山上ヨリ

領ミテ行進ス故に砲兵ニ別ニ砲撃ヲセズシテ止ム

九時左隊兩側漸漸次前進スルヲ以テ二分隊ノ兵ヲ出シ

第五中隊機関砲隊ノ順序ヲ以テ鉄道路ヲ行進電

光前ニ到着セシトス稍前面ニ敵ノ旗ヲ持者ニ云々ヲ

見ル

近衛市團司令

山崎

三十一

0454

九時十分右側漸々途中若干、敵ヲ撃退して廣漠タル平原ニ達スリニ三千米突圍ニ多少、起伏アリト雖一展望ヲ遮ルモノシ約百名、敵ハ起伏ヲ利用シテ我ニ抗セリ之ヲ撃退スル敵ハ北方ニ退却セリ依テ後衛ヲ設ケ龜嶺ニ向テ行進ヲ継続セシ敵兵再々来リテ我ヲ尾撃セリ

十二時右隊龜嶺ニ達セシ時南方山上ヨリ僅少ノ射撃ヲ受ク然レモ僅ニ二三名ニ過キテ而シテ前面及西側ニ停止し候ヲ派遣シ西側漸々来着ヲ待ツ

午後三時十分右側漸々龜嶺北方約千米突圍ニ達ス敵兵若干我ヲ尾撃スル周テ之ニ對戰中恰モ良シ松

91

本少尉ハ三分隊ヲ以テ敵ノ左側面ニ出ラセテ攻勢ヲセ
シテ以テ敵ニ逐ヒ北方ニ敗退セリ
午後三時半ニ大隊ニ命令ヲ下シ龜嶺ニ一中隊打類
坑ニ一中隊ヲ疎置シ附近ノ敵ヲ掃蕩スルニ命ジテ
三時四十分左側面ニ敵ノ金庫ニモ至ラセテ撃
攘シテ大隊ニ合セリ
六時五分海山口ニ敗退ス

92φ

明^洛二十八年
七月十五日
近衛師圍死傷表

死

傷

失

踪

四卷

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

攷 備		総			
		計			
		一			

0459

品名： 墨魚

以

天

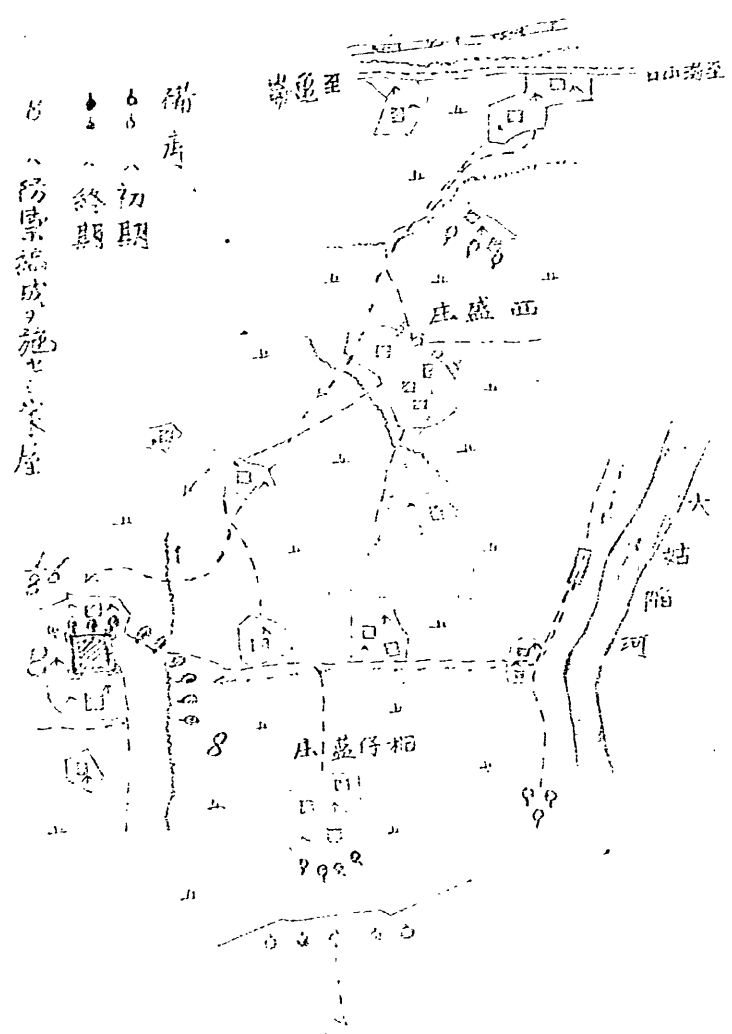
近衛師團兵器彈藥損耗表

0460

3

11

1
20000 部 前略閉戦近附庄藍仔相
陸中六才月陸中八群ルケ六三日三十月七



備前
初期
終期
防景線成り施せし家屋

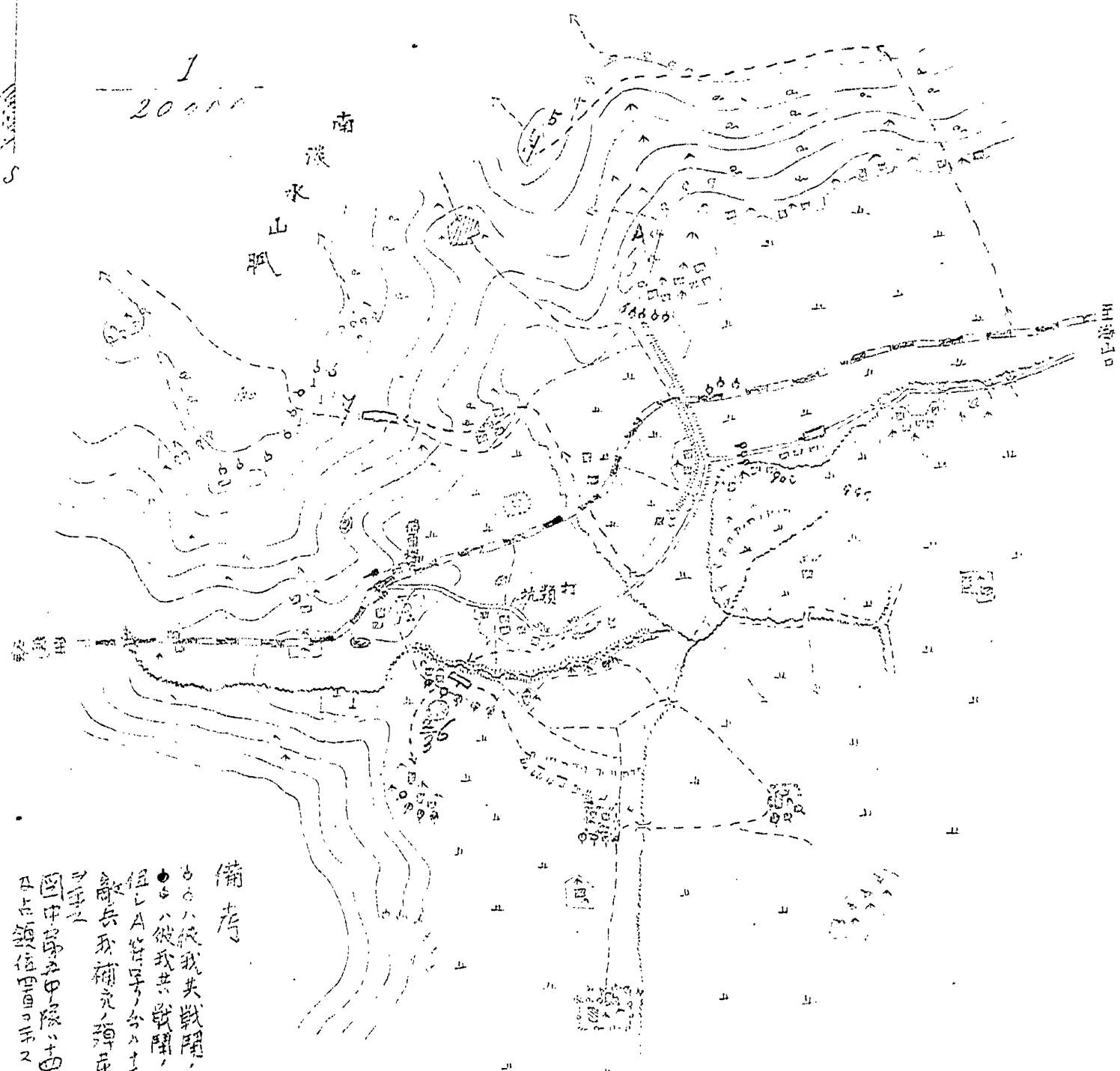
三才ハ三才ガノア
チ

0462

謝文正公集卷之六



1
2000



備考
 〇〇ハ彼我共戦闘、初期位置
 〇〇ハ彼我共戦闘、終期、位置
 位シA位置、今ハ〇〇年位の時
 敵兵ヲ補充、彈藥ヲ敵ヒシモノ
 〇〇
 國中島、中隊ハ〇〇日、運動、運動
 〇〇、運動、運動、〇〇

指揮官内藤大佐

自七月十五日
至十七日
海山口
桃子園間
戰鬥詳報

文青市團司令部

0464

[illegible]

0465

海山口桃子園間

戦闘報告

七月十三日午前九時三十分敵兵約三千名在打頼坑附近に於て
我運送糧食ヲ敵兵手ニ爲メ支那人夫ハ荷物ヲ棄テ、散乱
セ報ヲ得自、兵率由名ヲ率ヒ自カラ進テ援護シ、窪地ヲ去
リ、四五十米矣、然ラ敵四五十名ト遭遇シ激戦數十分間終
ニ敵陣地ヲ奪取シ海山口守備隊アル第七中隊ヨリ援護隊
ヲ派遣スルヲシテ暫時陣地ヲ守備セシモ終ニ至リ殘念カラ連
絡ヲ就ケル能ハス、是處ヨリ退却シ午後一時十分リ
但荷物護送兵三名行濁不明
右報告ニ應ジテ守備隊船中ノ尉ヨリ午後三時四十分報

佐南市團司令部

朝
三十九

0466

告ヲ得候テ、房ノ中、院特務御長桑原汎、下士以下十名ヲ
指揮セシメ、該地ノ擁護ニ任シ直ニ土獲島ニ命ト向ケム。然ルニ
途中空塘ニ於テ、船中尉ト合シ、自分率トシテ下士以下、船中
大尉ノ指揮ニ属セシメ、直ニ報告ニ皈ル。且報告白ク、島中
附近ニ狹隘中ニ於テ、守備困難ナリ、依テ空塘ニ於テ守備スル
趣キヲ報ス。故ニ房ノ中、院岡村大尉ト命シ、即刻土獲島ノ塘
ニ至リ、當日該地ヲ守備セシム。

當日戦死者、房ノ中、院歩兵上等兵官共、作

・一、三浦貴理、藥 三百九拾五發

敵死傷五十六名アリ

此、仔園ヲ海山口迄、兵站線路上、打頸坑附近ニ於テ、我糧

99

山村 四

食糧等糧食に通路ヲ絶テ且テ穩ニテ身ニ着テ通
路ヲ斷テ海山口へ交通ヲ連絡スル決心シテ如ク處置シテス
同而日午前第五時身ニ中隊ヲ官指揮シ當地土茂ニ火令
塘ニ至ル身ノ中隊ヲ前進セシ且テ出茂ニ魚雷帶打撃坑ヲ經
テ海山口ニ向テ前進セシ身ニ中隊ヲ存隊トシ同日午前第五
時三十分該地土茂前進中打撃坑附近ノ狹隘中兩高
地より尾々大尉ヲ受ケテ小部隊ヲ出シ射撃ヲ以テ抵抗シ續テ
目的ノ通リ前進シ且ニ魚雷帶より約五々土茂海山口に至リ
於テ一時三十分全編射シ敗兵ニ竹林ニ敗走リ依テ前進シ
打撃坑西方狹隘ノ出口ニ於テ近漸身四聯隊身ヲ隊連
絡ヲ通シ且ニ於テ内藤大佐殿諸方中佐殿ト出會シ

近衛市團司令部

0468

年ヲ受ケ何地守備アリ時ニ午五時一時リ一該地リ且情況ヲ
電報ヲ以テ通シ置キリ同日午五時五時内時大佐ノ年ニ依
リ當隊海山口ヘ引揚ケ露宿アリ時ニ午五時二時過ナリ

當日戦死者

大隊副官陸軍歩兵中尉吉田雲左郎

全負傷者

微傷 第六中隊歩兵二番重電水野祖次郎

全 第八中隊歩兵一番号高野田左郎

全消費彈藥 千〇四十七發

敵ノ死傷者ナシナリ

戦利品 銃着彈藥等アリシモ運搬上困難ナリ家屋

燒身降止に燒棄せり

聯隊重之七有而日多居方角三多
北海山口

一海山南北敵に殆ど撃退し西方高地敵依然あり

二聯隊は明日北敵を攻撃せん

三右衛門兵隊二聯隊第三大隊(二中隊)近衛山砲隊二

門は混成隊七機砲砲隊二予指揮に属す

四伊崎少佐は二中隊を右側漸より第七中隊に占領地

タル山脈を襲ふ命を回す攻撃せん

五山元少佐は部下二中隊に近衛第四聯隊第三中隊

(二中隊)を以て左側漸より鐵道線路南方山に上る

少
42
軍

常ニ向テ攻勢手スヘシ

六第ニ天院ノ中院ト機関砲隊ノ當地ノ守備ニ任ス

七第ニ中院ノ占領地トアル小隊ニ且其地ニ在テ我右側砲臺
戒スヘシ

八第ニ幸院ト鐵道線路ヲ行進ス

九第ニ中院ト幸院ト中院ヲ除ク外其第ニ時近ノ外
衛兵ノ位置ヲ失頭トシテ見守ルヘシ

陸軍歩兵大佐内藤政明

左側衛兵トシテ

七月十五日午前九時
於海山に重き砲臺

一聯隊重き第一項ヲ昇九項ト見守ル行ス

0471

世
か
里

二五備步兵第一聯隊第二中隊、前衛に任じ、即刻、鐵
道線路南の方高地に據り、砲臺を向て前進せし
三本隊、近衛第四聯隊第二中隊（一十隊）は、五備步兵第
一聯隊第二中隊に、午前十時十五分、出發、砲臺を向て
前進、

四、小行李は、本隊出發後、直に集會し、本隊に跟随せし
五、予、本隊、先頭、在て前進、

左側衛、官陸軍步兵佐山元貞矣

前衛、鐵道線路上南方、高地、端に於て敵と遭遇し、射撃、手、慍、
こゝに退却せり、然るに前進、方、山麓、敵、所、に、散、乱、し、射、撃、手、

又我隊之散兵隊聞て山野ヲ跋渉シテ帰還シ、龜谷南の方
 高地ニ於テ二時頃激戦シ射撃ヲ以テ敵ヲ退シ、龜谷鐵道
 線上ニ出ツ時ニ午後三時三十分ヲ該地ニ於テ内藤大佐殿ニ敵情
 日戰隊自軍況ヲ草間ニ報告シ目的ヲ達セリ、該地より各隊
 散兵歸還シ、就テ即ニ該地附近ノ地ニ宿陣セリ、牛乳園兵站
 附近方面約四百米突、森林中ニ敵兵發見シ、該地漸兵直
 之ニ應ジ、第六隊中隊モ直ニ敵兵對抗シ射撃ヲ猛烈
 シニ致シ、十分ニテ敵退却セリ、同夜同地ニ戰隊準備隊形ヲ
 取リ徹夜セリ
 近衛第一聯隊、第二中隊、市街郭内ヲ守備シ、西北方ニ敵
 兵同時ニ發見シ、之ニ對戦セリ、同夜戰隊ニ終徹夜セリ

同夜敵能長より至テ靜浦ナルモ、此レ

當日北風ナシ

全浦貫彈藥 三千八百四十發

敵死傷約千五二名

戰利品 銃着彈藥鎗等アリモ山上運搬困難

ナルモ、家屋焼却際全時ト燒棄セシメタリ

同十二日午前第九時再々南々々西北方ニ於テ敵龍衣アリ直之

三度戰死但ニ戰闘前敵分時ニ近漸第四聯隊第四中隊

應接爲メ當地兵並ニ看ミ去リト今時ト中隊守備隊アリ

一十隊ノ兵候到着アリ都立ニテ近漸第四聯隊第四中隊

(三十隊)ヲ敵、左側へ突進シ敵兵ヲ包圍スル如ク前進セシ

近衛市團司令部

山
に
四
三
二

全線一時激戦終に敵兵敗走せしより南進撃敵軍
南方、部落、皆追せり一船、警備、以前、面り各隊
北より各前方森林中、屢々斥候、派遣あり

痛日敵死者

第1中隊歩兵中尉 船田和一郎

全 員 傷 亡

全消費彈藥 五千三百四十發

敵、死者、三、四、名、あり、其、他、未、詳

同十七日午前、第1中隊、第2中隊、第3中隊、第4中隊、
、第5中隊、第6中隊、第7中隊、第8中隊、第9中隊、第10中隊、
中隊、同時、南、西、方、森林、中、村、落、に、斥、候、出、し、敵、情、ヲ、偵

49

察せしモノに敗兵は多しと云ふも、更に見當らす土民は農耕を志し
至テ靜穩ノ積ヲナリ至ル処人民厚意を表し、此は國市街
人民ニシテ難ラ、僻ノ近庄ニ在リシモノ、集會シ來リ、隨所ニ跟隨
シテ、歸家セシモノ多カリシ、又、當地ヲ、南方ノ土人ニ、歸來シ居
ルモ、且、其業ニ安セヌ、多クテ、群ヲシテ、或ハ村端ノ林縁ニ、展望シ居
ルモノ多カリキ

右去ル十三日、又十七日迄、分々報告多也

此は國市街隊司令官陸軍少佐岩元貞次

上青市團月分

三七

山

四十九

0476

[illegible]

列傳卷三

27

0477

指揮官山根少將

七月十四日
公十六日
龍潭坡系
銅羅塞附近
戰鬪詳報

近衛市團司令部

0478

44

引

龍潭坡并銅羅窰附近

戰時詳報

七月十四日

七月十三日中壁街ニ得ル敵情、概不左ノ如シ

一龍潭坡附近ニテ賊ヲ黨テ日本軍、為ニ尽カスル

土民等ヲ切害スル報既、多街住民生計名目又

姓湯名英ル者全地方ニテ切害セラル由

二昨夜或ル土民ヲ安平鎮ニテ賊魁胡加猷ル者

龍潭坡ニ臥床シ居ル由報告アリ

三今朝又土民ヲ胡加猷、銅羅窰ニテテ百餘ノ

土民ヲ招集シ居リ銅羅窰ニ良民蕭瑞雲

金南市團司令部

五五

0480

蘭國香をアリ之、執キテ胡カ居宅ヲ問ハ必ス

明カナラント報告ス

七月十四日午前五時三十分拉隊、右記屋令、同、中歴
ヲ察シ右側漸ク歩兵身四中隊（長村大尉）涼傘頂
ヲ至テ鉦四堆寔馬、同、

近衛退成拉隊屋令

七月十四日午前九時
中歴街拉隊司令部

一、士民、報告、依、龍潭坡、少数、士、逃、アリ又安平
鎮、アリ、賊魁胡加猷、目下、鉦四堆寔馬、ニ至、百餘、
士、逃、ヲ招集、ニ居、リト

二、拉隊、八月十四日、龍潭坡、同、前、進、ス

歩兵隊三聯隊、步兵三隊、及、工兵一隊、同日、龍潭坡

三、右衛門、午前四時、宿居地ヲ出テ、龍潭破、向テ前

進スル

四、右衛門、午前四時五十分、宿居地ヲ出テ、安平鎮

ヲ經テ、銅羅峯、方立ニ進ミ、敵情ヲ探スル

但、轉驛ニテ附ス

五、本隊、午前五時、分宿居地ヲ出テ、

六、歩兵第三聯隊、二分隊、大行李、護衛ニ任

スル

七、大行李、諸隊、出テ、宿居地ヲ出テ、本隊、跟從

スル

近衛師團司令部

少尉 四六

0482

八子軍隊、先頭、在

旅隊長陸軍大將山根信成

軍隊履分

前衛

司令官 歩兵少佐筒井元次

騎兵小隊

歩兵第三聯隊一中隊

臨時工兵中隊（一五隊ト一六隊欠）

右側衛

歩兵第三聯隊一中隊

本隊（左行員 前列）

0483

25

46

歩兵第三聯隊本部 第二中隊

砲兵第四中隊

衛生隊本部

工兵一分隊

午前七時三十分 前衛中隊長（藤岡大尉）より龍潭坡東

方より一齊射撃、数回、筒より銃聲が聞

（大砲も、同じく数回、筒より銃聲が聞

た。八時五十分 前衛中隊長より龍潭坡に若干の敵兵あり其

負傷者ありと云ふ。九時五十分 枝隊より龍潭坡南方よりスチール

二連発砲、又砲あり。日午後、敵兵家屋、松を防禦す

前衛は直に展開、之より射撃あり。依り本隊は左地附

江崎市中野町司令部

大分 四七

0484

近、隊進ヲ余ノ前方ノ偵察ヲナリ然ルニ堅固な家屋ニ
 銃眼ヲ設置シ目取ニ頑強ニ抵抗シ容易ニ近接奪田名
 スル能ハカルヲ以テ前衛ニ且附近家屋ニ放火シ漸次之ニ
 迫リ茲ニ於テ歩兵一カ隊長松崎中尉ヲ龍潭坡ノ西北
 端ヨリ進入セシメ前衛ノ右側ニ増加セシム然レハ敵ノ街衛
 ノ各家屋ニ設置セル銃眼ヲ狙撃シ容易ニ近接スル
 ヲ得マ依リ向歩兵一カ隊（中隊長代理人見中尉）ヲ此方
 面ニ増加シ攻撃ヲ實施セシメタリ此諸隊モ亦近衛家
 屋ニ放火シ漸次進入セリ此時前衛中隊ニ銃々死傷
 者ヲ生スルヲ以テ衛生隊長ニ余ニ龍潭坡所ヲ龍潭坡
 北方高地ニ退却セシメタリ（報告第一号）

午後十時十分砲兵中隊（長、莊司大尉）は龍潭坡西方
 高地に砲列を布き龍潭坡に砲撃する。午後十一時
 敵の退路に想定する該地東南方に歩兵一中隊（長、西郷
 中尉）を派遣して監視せしむ。街衢には在る各隊長二年に
 一時射線外に一時敵兵若干龍潭坡
 東北方集居家屋の附近に現出せしむ。向て射撃す
 依りて砲兵一中隊は此方位に向て砲撃せしむ。須臾に之を
 敵兵射撃す。至時歩兵一中隊は龍潭坡北方に出で
 該地附近に停止し退き、敵兵の射撃せしむ。此時砲
 兵の更なる方向は龍潭坡に轉じ砲撃せしむ。目標不明
 の為、充分な成功を見ることが出来ず、敵は依然として動かし

依三時砲撃ヲ中止ス時、午前十一時五十四分ナリ

午正時砲兵、陣地ヲ龍潭坡、南ニ約千米突ニ見

地ニ变换シ二時廿七分ヲ市街、南方集團家屋ニ

向ニ猛烈ニ砲撃ヲ施行ス、此砲撃、殲着、觀測

確實ニシテ充分ニ果テ切リ得敵、其位置ヲ保ツ能ハ

ズル動搖ヲ依テ直ニ歩兵ニ中隊ヲ市内ニ進入セシメ敵

ヲ撃手攘リ、今時大ニ各家屋ニ放テ彼、防禦工事ヲ

破壊シ、其ヲ潛伏セル敵ヲ駆逐シ之ヲ撃手殺ス

午正四時三十分龍潭坡ニ至リ我手ニ留リ

敵、死傷詳カラス、其死者、百餘名、シテ若干

ノ敵兵、在地東方塩菜魔及三坑ニ方向ニ退却ス

敵、機甲兵器、槍、刀、ロケット、ミサイル等あり
 当日騎兵二兵、前衛三属、騎兵、前衛中隊、先
 々龍潭坂に進入し若干、戦ひし前衛中隊、其位置に
 譲り龍潭坂、南北両地、駐止し監視ヲせり、工兵中隊
 之亦々前衛、全時龍潭坂に進入し戦闘ニ参與せり
 午前九時三十分、特務隊長、三十分隊ヲ附し大崎隔
 進ミ、歩兵第二大隊ト連絡ヲ圖ミ、戦ひ遂ニ、見たり
 本日午前十一時、大崎隔河左岸ヲ進ミ、今田大尉ヲ
 報告達ス（報告第三号）
 右側衛中隊、報告モ併セテ進達ス（報告第三号）
 当日、戦闘ニ於テ若干、勲功者アリ、モ後日調査

佐野市團司令部

山田 四十九

上進書

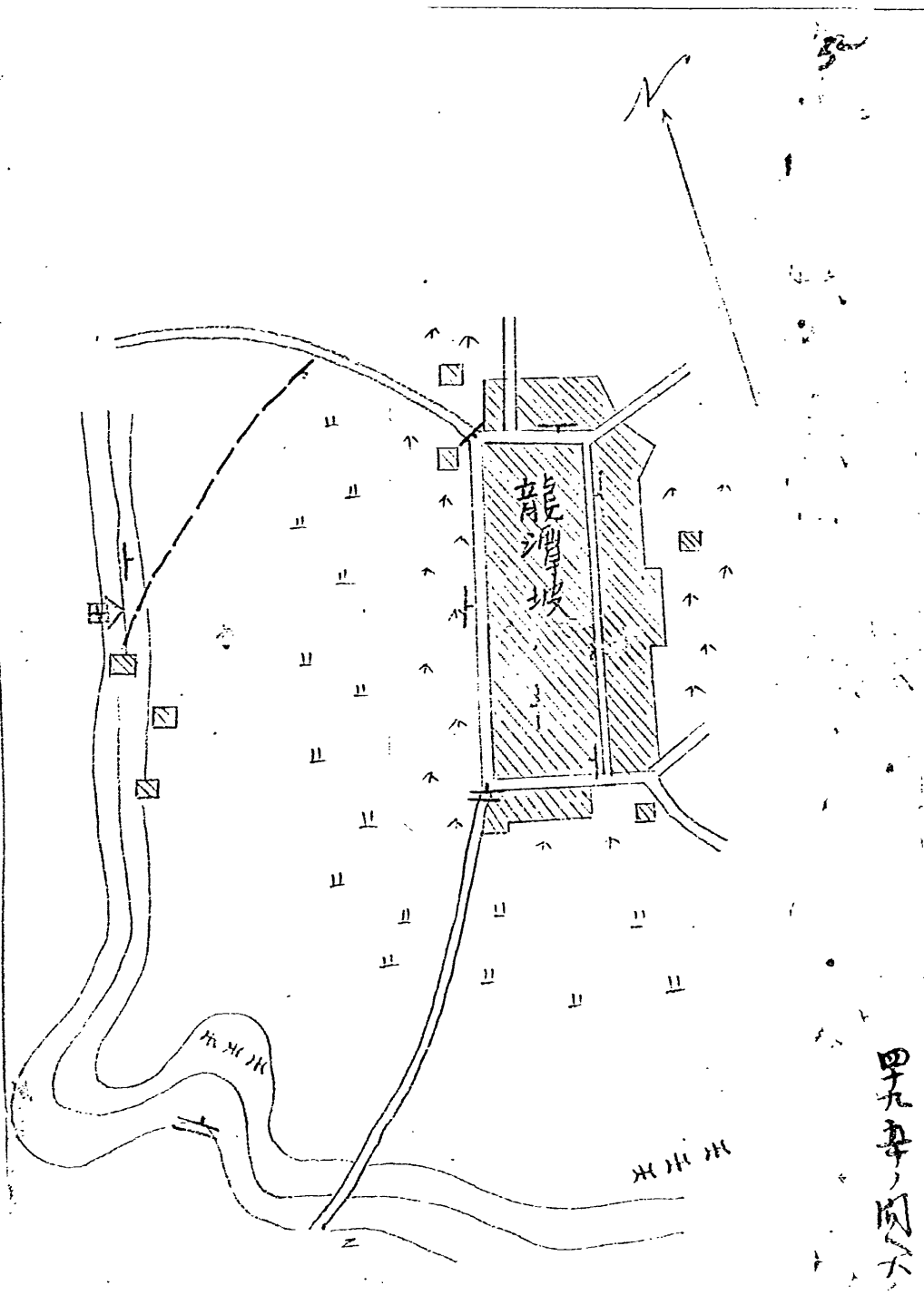
明治廿六年 七月十四日

混成枝隊長 山根 少将

明治廿六年七月十四日

30

0489



0490

49

別

報告第一号

新 兵

此傷者收容之目録況乃報告

一、明治廿年七月十四日午前九時三十分龍潭坡北方直
徑約五六百步突三村路、滿單所、深設

戰時地形狀

二、交戰地ハ主トシテ市街戰ニシテ即チ市街中隊ハ已ニ龍
潭坡市街十字路ノ家屋ニ籠居射眼ヲ構造セシ敵
ト交戰シアリ又其東方約五百米突市外ニテ中隊乃龍
潭坡西方ノ入口ニテ中隊アリ此中隊ノ右方約三百米突
ニテ中隊アリ即チ我右翼用兵トス

擔架 率 配 布 兵 員

龍潭坡市街圖

0491

三、縮帯一所開設す。此時、四人伍を十檐架の前衛
 中隊、戦線に檐架中隊長、副隊長、身傷者ヲ收容
 し、六檐架ヲ我右羽翼に、此方面に戦隊終る迄
 二檐架ヲ配布し、望より前戦隊終る後全線に二檐
 架ヲ派遣し、身傷者ヲ收容す。此ヲ為りしなり。

收容道路難易

四、戦線に約千米突進し、過きかりし右羽翼に中央ノ連絡不
 通を、大に後方ヲ迂回する、不便アリし。

戦線より縮帯所ニ至る巨濠に、直径五、六百米突進し、過
 きかりし中央ノ右羽翼、後方ニ一帯ハ水田ニシテ市街、
 東方ヲ迂回し、運搬アリ、故に一般ニ傷者運搬、路

八〇

山林寺

程約千乃至千四百米、余り

市街外、於テ運搬路ハ利用ス、地物アリシニモ拘ラス

市内ニ死傷者ハ悉ク大線上ニ收容セラサテ危嶮甚ク

多カリシ、及綑帶ノ間設テ見ズ故ニ我收容シタル死

傷者ハ皆戦線ニ於テアリ然レモ右翼ニ於テハ收容

危險、自ラ方リシ

五、收容セシ死傷者十一名、内四名死亡、残余ハ直ニ中野建兵

站司令部ニ後送ス

六、戦時所ハ龍潭坡北方高地附近ニ露降受

右概略戦時詳報ニ目至、目見況 報告ス

明治三十九年七月五日 連隊々生隊長 十倉 高行

上野市團司令部

0493

致荷所囑 謹令 音

0494

報告第二号

山手

五

今日大尉報告 七月十四日
駐劄佐衛巨嶺部

去月廿二日午前三時名北村生茂海山口ヲ経テ今日午後二時二
甲九庄ニ着今地ニ露宿ス

二十三日午前三時十五分敵兵約五百名田畠畠等ニ依テ時之
ヲ撃攘シ得ルモ續頭固抵抗ヲ示シ且ツ我軍死傷ヲ生シ進
退ニ困難ナラシメ午後三時頃甲九庄ノ西北方約千米突
ニ在ル一高丘ノ敵地ヲ占領シ悉ク負傷者ヲ収容ス然ルニ
卒隊ノ連絡ニ到底望ミ得ヘカラス且ツ負傷者ノ殆末ニ困
難ナラシメ今日午後九時潜行山下リ翌五拂曉此處ニ進
着

佐衛市團司令部

0495

三十三日午後三時、三兵卒(第一中隊)敵地ヲ潜リ負
傷(三人中一人)ニテ来ル其故ヲ問フ、慚ク答テ曰ク糧食運
搬爲ノ艱ニテ余隻ニテ川ヲ溯ル内敵敵を遇ヒ護衛兵
三十名悉ク死没シ我等三名漸ク是近逃シ来リ報告ニ
四十三日即死上ノ兵以下四名負傷六名(第一中隊中隊長負傷)
五戦闘中皆重傷、破損銃を棄却シタリ
六負傷者悉ク捕ハレ圍ニ運搬ニ具テ捕虜ニシタリ
七、捕虜ニ来ル途中石田軍匠、乗馬大溝中ニ落テ上ル
ヲ得ス故ニ之ヲ放逐スルナリ
八、敵一多ク土民ニシテ近村ヨリ集會セシモノ如シ
有日三兵卒非常ニ疲勞セルヲ以テ埒地ニ一日休養、上明ナ

人へ

春日御地へ向て生獲ノ旨

商書細御地へ到着、上報告ス

大隊長ニおき報告ノ道ヲ得、且、所在モ不明ニ付

未ダ報告セズ

一、
カ
ワ
タ
シ

山
名

九
三

左衛門團司令部

0497

57

報告書三号

57

辛巳

右側衛戦聞 報告 七月五日午後三時
於銅羅塞

一昨十三日中夜に於て左ノ年々ニ受ク

身四中隊に右側衛より安年鎮ヲ経テ銅羅塞方位ニ向

進エヤシ

二右ノ年々ニ依リ身三ノ隊ヲ右衛より今日午前四時中夜出

茂安年鎮ヲ経テ銅羅塞西南端ニ到達セリ然ルニ土寇

約三四十名銃火竹槍且他ヲ以テ東南方高地ニ位置シ我

ニ抗セリ依テ身三ノ隊(右衛)ヲ散開セテ身一ノ隊ノ一個分

隊ヲ敵ノ左方ニ出シ虐戦セシメ敵一暫時ニテ土民と混

ニ牛欄河方位ニ退却セリ

右衛市團司令部

32

0499

云、九時十分全ク銅羅塞ヲ占領セリ、當村ハ人家約十四戸に
住民ニ悉ク一時散乱セシムテ且他ノ詳細ヲ知ルコト由ナシ

四、村落内ニ防禦ユキテ其處モ無シ

五、胡錦、別郎等ニ見當ラハルモ全無製造所アリ且構
造材料中第一ナリ

六、敵ノ死者三名(何モ古傷ヲ所持ス)傷者五名ハ正ニ月撃
アリ我ニ死傷ナシ

七、方礮品ナシ但シ人家ニテ元ハ銃彈藥約百発ヲ発見セ
リ

八、午後一時牧野騎兵中尉連絡片假トシテ来リ之ト全時ニ
勝田中尉ニ分隊(廿三名)ヲ附シ龍潭坡ノ東方高地ニ

14

運路片候トシ出セリ

九、且後敵情ト就テハ得ル処ナシ

十、村長蕭瑞雲宅ニ於テ兵事ト関スル書類發見セリ

十一、中隊ハ今夜當村ニ露宿セシトス

林大尉

林大尉ノ送付ノ兵事ニ関スル書類中ハ意味モナリ但シ地名人名共ニ詳カナラス

聞ク魯國日本ト戦端ヲ開キ目下魯兵長崎ニ侵入ス
台湾ニ在ル日本兵ハ陸續帰國セシトス台北、日本兵不
日五脚ノ地ヲ失フベシ足下日本兵ヲ整裝整齊ニ辱日本

江崎市團司令部

五十五

0501

兵ヲ苦ミム日兵自今幾日ヲ友へ難し牙も不日陥ヲ
牽ヒ先ツ新竹に在ル日卒兵ヲ殲滅に直し北谷(河)地
方カニ抵り足下ト氣脈ヲ通セト欲ス

明治三十八年
七月十四日
近衛師團死傷表

明治二十八年
七月十四日

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

戰鬪詳報其毫驛附錄

近衛師團兵器彈藥損耗表

0504

考 備									
		計							
		三四							
		六七							
		〃							
		三〇九三							
		一							
		一							

0505

入7

31

少田 八

東陽新報

七月十三日

七月十五日洞羅塞三派遣て兄弟中隊長（林大尉）報告
 二周ハ牛欄河（洞羅塞南方約清軍）北方高地、敵兵野壕
 ラ修設し防固キ準備ヲシ向ホ土民報告ニ土匪四五百名集
 合セリト因テ同日午後之レ頃急ヤセシテ高地に設け百九野壕
 十二個ニシテ若干ノ敵兵之レヲ占領セルヲ以テ二十日午前之レヲ攻撃
 ス決シテ左ノ年ヲ下セリ

近衛混成旅団命令

七月十五日午後九時
於龍潭渡

一敵ハ牛欄河一帯ノ高地に約十二名ノ掩壁ヲ構築シ之ヲ占

近衛市團司令部

0506

概より具線長サ約三千米矣。且九

二枚隊一昨日午間河ノ敵ヲ攻撃セントス

五歩兵第一大隊(第三中隊欠)騎兵四名、中隊大佐指揮ニ從

ヒ右縦隊トナリ午前三時露營地ヲ出発シ敵陣地ノ左側

ヨリ攻撃ヲ實施スヘシ但シ五歩兵第四中隊宿營地撤去

ノ時刻ハ中隊大佐ノ指示ヲ受クヘシ

四本隊ハ騎兵十隊五歩兵第三中隊砲兵中隊工兵中隊衛生

隊ノ順序ヨリ右縦隊ニ從テ出發シ銅羅峯向ヒ前進

スヘシ

五歩兵第七中隊(十隊欠)騎兵四名、田大尉指揮ニ屬

シ露營地ニ止リ該地ニ殘留スル行季糧食留置ス

ト

擁護し且龍潭坡附近村落ヲ搜索スヘシ

六歩兵第七中隊ノ十隊ト斷兵二名ヲ予カ直轄ヨリ龍潭坡

ヲ銅羅寨ニ通ル道路ト上ニ高地端ニ位置シ銅羅

寨ニ龍潭坡間ノ交通ヲ維持シ所要ニ應ジテ龍潭坡

若ク銅羅寨方面ト接敵シ得ルニ由テ中隊ノ左隊ヲ後尾

ニ據テ生發スヘシ

七名隊ノ行方ニ小行方首ニ龍潭坡ニ止リ歩兵

第七中隊長ノ指揮ヲ受クヘシ

八予ハ左隊ノ先頭ニ在テ行進ス

近衛混成旅隊長少將山根信成

十二日午前三時接隊、右混成旅先頭より龍潭坡露路岩地ヲ

改日 未

近衛市團司令部

0508

茂シ午未四時五十分、振雄軍達ナリ

至五時右振院、第四中隊ヲ前衛トシ、敵ノ左側ヲ攻め手スルノ
目的アリテ、敵ニ近接スルニ地形多クヤ、敵ノ激突セル高地、斬壕
ニ入り且前衛左側ヲ瞰下シ右側ハ山脈ニ托シ頗ル堅固ノ陣地
ナリ

同五時五十分右振列、高地ニ達シ敵ノ左側ヲ攻め手スルヤ、敵
兵頗ル動揺セルヲ以テ砲兵ヲ以テ射撃手セシム

同六時三十分敵、南方山中方位ニ退却ヲ始メタリ因テ第四第一
中隊ヲ以テ之ヲ追撃手セシム

同七時敵全ク退却セルヲ見テ高地ヲ占領セリ敵、死傷ハ詳カナラ
スト重傷者半々名ニシテ我モ死傷ナシ又敵ノ巨砲ハコレシ

29

トシテ「マルチニ」槍長刀ノ類ナリ

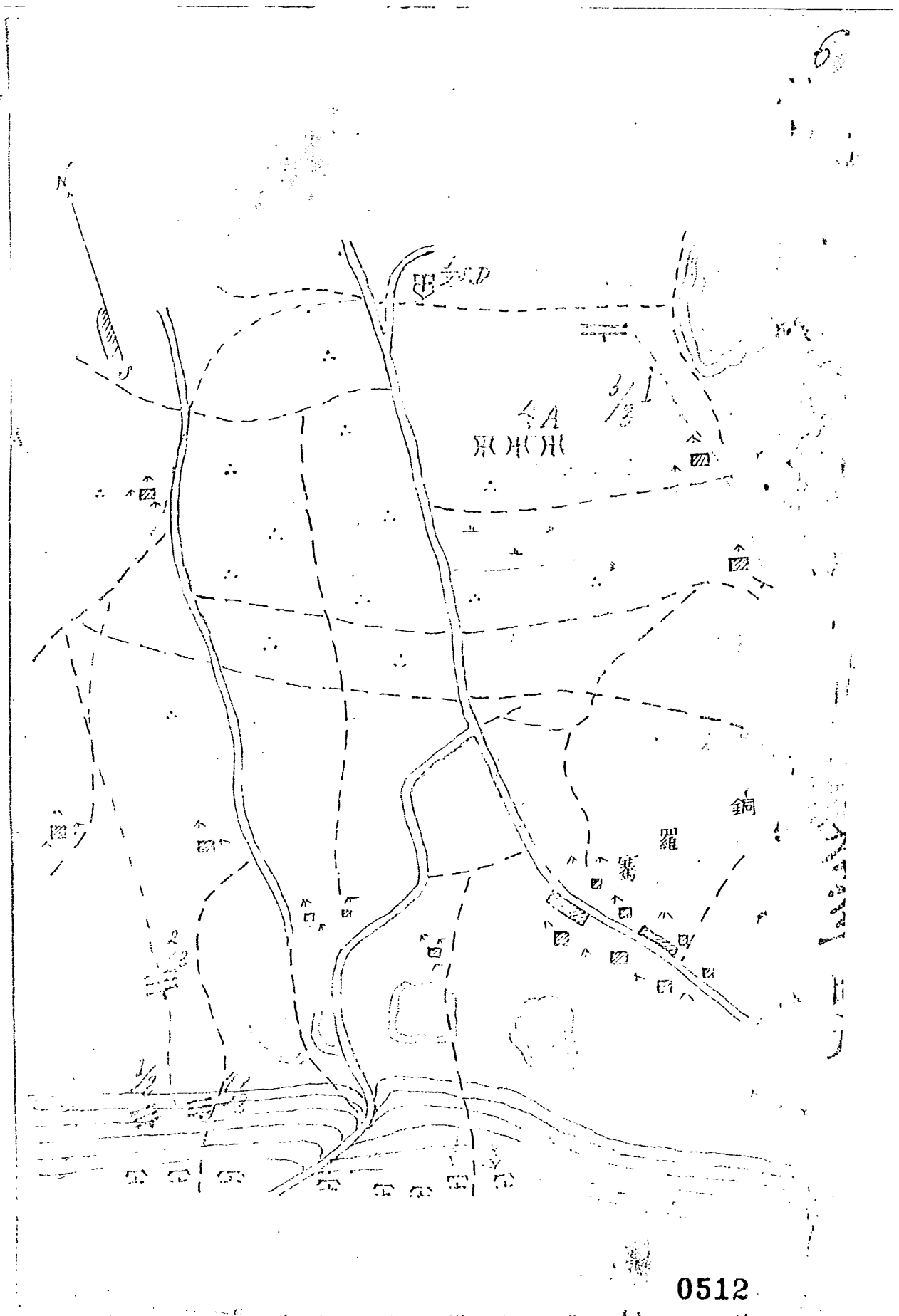
同モ時ニ分ク候ヲヒテ搜索セシムルモ敵兵逃遁シテ一人モ見ヘス
又我地島地ヲ占領シ守備スルモ且必西ノ事ヲ認メ且第三聯隊
第三大隊ノ連絡未タ通セサルヲ以テ先ニ龍潭城ヲ歸還シ時
機ニ依リ大蛇陣ヲ布ニ進軍スル見込ヲ以テ第四中隊ヲ以テ前占領
セシ洞羅窟ニ守備セシヲ桂隊ハ龍潭城ヲ歸還ス

混成隊長 山根 文 将

江崎市團司令部

山根 文 将

0510



戦国新報 七月十八日午後

七月十八日午前九時、銅羅署南方、攻勢多終り
 龍潭坡、湧出スルヤ、オ大津、ハ中津上、等、白
 石、安太郎、ト者、大津ノ年ヲ妻ケ、大姑、暗ヲ、妻、白
 外ニ表ト、其、終、重、田ヲ、脱、ト、五、日、午後七時、大姑、暗
 同、ヲ、暗リ、途、才、ニ、名、宛、カ、レ、白、石、ハ、オ、大、津、ハ、其、年、三
 尾、保、方、既、ト、同、行、セ、シ、途、中、敵、ハ、包、コ、レ、三、尾、ハ、彼
 等、ヲ、殺、ス、知、ト、ナリ、白、石、ハ、所、持、ノ、ロ、ス、ト、ル、ヲ、以、テ、一、名、ノ、款
 フ、付、シ、其、機、ハ、乗、レ、逃、レ、来、リ、レ、由、左、ノ、報、告、ヲ、ナ、セ、白、石
 オ、大、津、ハ、オ、大、津、ノ、オ、七、中、津、(早、田、大、尉)ト、其、ト、上、旨

江戸市司馬司、下

今、分、

三、角増、右落露宮、十一日午前四時出笑
 大姑暗、至ル途中多数ノ敵、遭遇シ戦、陣亡
 其敵、約千五百人、シテ砲三門（木砲カ）有
 其而シテ当日ノ死傷十名（即死ニ傷十）ナリ此
 日、夜、敵、封シ山中、露宮セリ
 同、高日午前四時、至ル露宮地ヲ奔リ大姑暗
 東北方、約千五百人、至ル高地、敵ヲ攻撃セシメ
 其、右、鎮守、此時、我、前、由、敵、ハ、約、四、五、名、砲、三
 門、有、セ、三、角、増、方、面、敵、ハ、後、衛、ニ、接、シ、来
 レリ、其、数、七、八、百、名、砲、若、千、ナリ、此、役、ノ、傷、者
 ハ、少、シ、其、尉、佐、森、安、之、助（オ、三、郎、江、江）特、務、長

上野集(才條如才七才條)外下才七下才七才七
死者才七

右ノ如キ最況ナルヲ以テ包圍ヲ脱出スルハ敵ヲ
難キニ非スト金允多數ノ死傷者ヲ生セシ又
大姑臨ヲ攻撃スルモ其地形タルヤ三面水田
ニテ一面地壁ヲ以テ支ハレタル河岸ニ接シ
且ツ堅固ナル防禦編成ヲ以テ居ルヲ以テ容易
ニ占領シ難シ且傷者ヲ治療スルノ材料ナク又
スヲ運搬スルノ手段ナレ而シテ目下携帶口糧ハ二
食ヲ才七才七才七才七才七才七才七才七才七才七
ノ故ニ急遽ニ救援ヲ切望スト

才七
才七

0515

前件報告、接シタルヲ枝降ハ五ヲ救援スルニ決シ中
國大使方ノ讀年令ヲ曉ヘタリ

一 大姑陷川ノ右岸ヲ前進セテ身至天城ハ大姑陷

附近ノ地ヲ優勢ニ敵ニ迫ラシメ

二 貴官ハ歩兵ヲ天降（オミテ中降及）并歩兵ヲ七

十降砲兵ヲ中降ニ及中降及衛生隊ヲ

率ヒ即時当地ヲ出降シ大姑陷ノ敵ヲ攻撃スレ

テ又降、建結スレ

三 予ハ後刻当地ヲ降シ大姑陷ノ前進ス

同午前七時頃此年令ニ依リ露營地ヲ降ス

同午後二時大姑陷西南方高地、建結此地地形

62

社司

大姑陷市街ヲ瞰制シ得ルキ良好ノ陣地ニシテ砲撃ノ便
 利ナリト此山腹ノ直路ハ峻険ニシテ砲兵ハ通過シ得ル
 カズ又大姑陷川ハ谷所往涉シ得ルモ前岸ハ水田アリ
 市街ニ到ルニ便重ナル斜面ヲ登リ上ヘカズ而シテ敵ハ渡
 船場ノ舟ヲ尽ク右岸ニ集メ居レリ
 同ニ時オカサ兵オカサ降ノニ降ヲシテ數回ノ一齊射撃
 ヲナサレト尋テ砲撃ヲ始ルヤ多數ノ人民ハ東方山中
 ニ向テ退走セリ
 同ニ時オカサ兵オカサ降ノニ降ヲシテ砲撃ヲシテ掩護射
 撃ヲナサレトオカサ兵オカサ降ノニ降ヲシテ大姑陷川ヲ往涉セシムルヤ
 敵ハ存在、設置直ニル壘場或ハ樹林、知テ往涉ス

0517

ノ左修ヲ射撃ス。此時少長尉長渡出被兵平
一名負傷ス

同々時少長ヲセテ河セシ此間砲兵ハ市街
南部ノ家屋ニ向テ射撃ス。此時銃砲類リ
被列線ニ達シタリ

同々時少長ヲセテ河セシ此間砲兵ハ市街
南部ノ家屋ニ向テ射撃ス。此時銃砲類リ
被列線ニ達シタリ

同々時少長ヲセテ河セシ此間砲兵ハ市街
南部ノ家屋ニ向テ射撃ス。此時銃砲類リ
被列線ニ達シタリ

69

山村 幸良

ヲ射殺セシムルヤ敵兵勦掃セリ

同五時ヲシテ兵一隊重傷敵尾節大段十余名ノ兵ヲ率

レ咄喊進發ヲ始ムルヤ兵七才ヲ降セテ之ヲ続テ咄喊ス

同五時ヲシテ坊地兵仇ノ率ル兵才一隊降ヲセテ中降ノ小降

(歩兵中尉)ノ兵中降ノ小降(兵才一隊)ハ我路營地ニ来リテ

建路ヲ通ス

同六時市街ニ侵入レ各家屋ノ防禦編成ヲ破壊シ且ツ

之ニ放火セリ敵兵狼狽東北方ニ向ヒ退却ス我兵猛烈ニ

之ヲ追撃セリ

同六時ヲシテ市街ノ東北端ニ達シ全ク大姑陥ヲ占

領シ終レリ

全南市團司令部

. 0519

同大時甲子松崎出馬中尉、下隊ヲ率ヒ坊地大隊、
建結ノ多ク明遣セシ

同七時甲子大姑崎ヲ占領セシ出馬甲子七中隊、左
ノ口陣全令ヲ下ス

一 枝隊ハ多夜現在、地々露營ス

二 出馬甲子七中隊、其地(大姑崎)ヲ占領シタルニ

三 宿糧ハ携帶口糧ヲ使用ス

財記

七月十七日午前六時坊地出馬及ヒ昨夜明遣セシ松崎
中尉ハ平路營地ニ帰還ス

64

同午前十時頃より市街ヲ搜索スルニ足部、銃ヲ被
 リ家屋内ニ付ル者アリオ六中隊特務隊長櫻井彦
 夫ノ所持セル圖囊ヲ携テモ者アリ或ハ背囊ノ鈎支
 至又携テ帶口糧ヲ藏スル家屋アリ之レ疑モナク殊
 一舟ニテ輸送セシ糧秣護衛兵ノ携行品也之レ何レトナ
 六波等ニテ右様ノ物品ヲ所持スルキ理由ナケレハナリ殊
 一圖囊ノ如キハ正ニ具中ニ櫻井特務隊長ノ手帖
 現在スルヲ以テモ大姑留ノ人氏ハ糧秣護衛兵ノ殺
 戮シタル匪徒タルヲ証スルニ餘リアリ
 同午前十時頃中隊ハ渡船場ヲ修理シ繰繰
 ノ渡船ヲ設置セリ

少
 大
 五

市街市街司
 分

39

0521

同八時より十時迄、中々天降、雨、中々降、中々降、
降、負傷者、五名、達、搬、衛生隊、交、付、セ
リ

同十時迄、中々降、中々降、中々降、中々降、
露、露、地、来、ル

中々混成、枝、長、山、根、信、成

中々師、長、能、久、親、王、殿

中々降、中々降、中々降、中々降、中々降、中々降、
中々降、中々降、中々降、中々降、中々降、中々降、

65

傷者收容之状況及詳報

一 明治三十八年七月十六日午前三時龍潭坡ヲ築レ牛欄河之
 高地、地ヲ攻撃セシムル能ハス陣地ヲ築テ南方
 へ退走ス我々、傷者ヲ多クテ備帶所ヲ開設セシ
 自龍潭坡ニ引揚ルヤ午前四時迄是カニ待テ
 又降リ連結シテ大姑陷ニ向ヒ前進シ午後三
 時軍ヲ大姑陷封岸砲兵陣地、側傍家屋ニ備帶
 所ヲ開設セシ

戦場地形、形状

二 大姑陷西北端家屋ニ掘リ牆壁ニ銃眼ヲ穿テ視

立寄市團司各事

立寄市團司各事

.. 0523

地ノ秋攻殺方而ノ地域ハ悉ク水田ナリ

檐架平配存ノ只負

三端帶所開設ノ建金令凡ト即時永保中隊長
ハ大檐架ヲ引平ナレメ大姑陷川ヲ往涉レ前橋中
隊各位ニ至ラレメ内ニ檐架ヲ大姑陷南方入口
アリレオ七中隊各位ハ以道ヲ入ラス一檐架ハ
編成ニル理由ハ大姑陷川ノ往涉場至極極
ヲ困難ナリレニ由ル午後天時ヲ過キ我戦線明
減大姑陷ニ進入スルヤ多ク傷者ノナキニモ非ナ
ク是レリ端帶所ニ我置直ノ檐架亦ヲ悉ク戦
線ニ向テ奔進セシム

66

收容ノ難易

四 繙帯所ヲ我戦線ニ至ル直往巨賣泊チ而末
突ニシテ且ツ標ヲ峻峻ノ断崖ニシテ大姑暗川ノ
往方深サヲ突ニ建搬ハ其ヲ困難ニアリレ加
ニ其大姑暗川往方点ニ於ケル河床ハニ流ニシテ
其幅四五才末突此往方間敵ハ地ハ其射鋒
ヲ注集セリ漸ク我戦線ニ近接スルニ至テハ多ク
水田上ニ運搬九才末突敵彈ハ前右左右ヲ
飛来ニ傷者收容上ノ困難ハ層々危候ヲ標
シ

山

ス

1140

0525

午後九時據報中隊ハ全ク崩帶取、飯遷セ
リ

五衛生隊、於テ崩帶取開設シテ毛拘ハス
隊屬衛生隊員ハ戰線、跟隨シ及崩帶
所開設シテ見テ者不故、傷者ハ悉ク方隊
ハ戰線ヲ崩帶取、收容セリ

六方始攻敵ヲ追シ死傷者五名 (内上軍
兵卒四員死)アリ

翌十七日龍潭坡、転送ス

同日未明中隊隊員ハ天候及中隊隊員
ノ傷者ヲ悉ク五名転送シテ毛拘ハス
テ崩帶交換ヲシテ悉ク龍潭坡、転送ス

七. 詳報、楊々キ勲功者アルヲ確認セム

右詳報、基キ景況概略報告ス

明治二十八年七月十八日

海軍衛生隊長十倉高行

海軍成校校長少将山根信成殿

江崎市團司参事

山根 参事

文部省 国史館

0528

致 備		佐			
		計			
		一			
		一			
		二			

42

0530

指揮官 阪井大佐

七月廿三日 新竹附近戦闘詳報

新竹附近戦闘詳報

0531

[illegible]

0532

引起

山岸

新竹附近

戦闘詳報

七月五日

午前時五分南西門衛兵報西方前哨(枕頭山)方向より銃聲

ヲ聞クト

三時前哨第三中隊ヨリ報(午後出テ敵遭遇セシ午後長)今夜

零時頃前哨線前小隊候(四名トシテ差遣セシ南方へ前進スル

約千五百米ニテ俄然敵兵衝突(七発交)止メ令ヲ下セシ彼直ニ

膝落ヲ執リ射撃ヲ開始ス午後亦之ニ應射セシ敵次第増加シ

約千五百米ニテ其彈丸自分小隊及銃剣ヲ射テ此處ヲ退却

ト主哨報又前哨中隊長報告セリ此警報ヲ傳ヘ午前二

直轄市團司令部

.. 0533

時ニ分軍旗ト共ニ西門上ニ義前哨(枕頭山)方向ヨリ頻リ銃聲ヲ聞^き及^て銃火ヲ自撃シ察スニ敵僅ク斥候ニテ必ス夜敵ニテ其後派部隊人バシト

午前二時甲分前哨(枕頭山)前哨員令官ハ第二中隊ヨリ二小隊ヲ第一小哨ニ小隊ヲ第二小哨増カシテ左遣セリ

至三時三十分前哨(志岐中尉)ヨリ報ニ

敵ノ兵力詳ナラザルモ枕山下哨位置ニ達セリ

敵ノ砲兵ハ本陣地ニ在^ル砲臺スノミ

小哨ハ前出兵ヲ盡シ收容陣地ヲ固守ス

増加兵ノ必要ヲ見ズ

敵兵機進^シテ小哨(志岐中尉)弗曉ヲ待テ逆襲セシム

全四時手入頂枕頭山ニテ頻リ銃聲ヲ聞ク奈ニ小哨逆敵ナラン
 ト是ヲ先高尾小隊ヲ小哨置志岐中尉小隊(平右)率ニ付去リ
 着ニ白衣ヲ被暗ニ来リ前進敵ヲ去ルキ米ノ地潜伏ニ拂曉ヲ待テ
 吶喊シテ敵ヲ追ハ敵退固ニシテ容易ク退却セシ偶々右側ニ出セル向候
 又高尾小隊亦来リ突撃敵固敵退シテ下士哨位置ヨリ南西
 方ニ分退却ス急追尤モカ
 午前四時三十分左ノ命令ヲ下ス
 第四聯隊第三中隊及砲兵中隊(三門)ハ前哨方面ニ至リ大野
 歩兵大尉ノ指揮ヲ受ケ前哨敵ニ當レ
 午前哨中隊長(大野歩兵大尉)ハ左ノ命令ヲ傳フ
 砲兵中隊及第四聯隊第三中隊其ノ方面ニ差遣ス俟リテ貴官ハ

金野市團司令部

社司

43

0535

之ヲ指揮スルニ至ル時分人方向及右側ノ敵(三百名)ハ白旗ヲ立テ
 蘇連ハ新妻中隊ハ直ニ之ニ當リ砲兵中隊ハ小砲ノ位置ニ放
 列ヲ布キ射撃ヲ開始シ前面及右側ノ敵ヲ砲射ス枕頭山方面
 大小砲聲稍々盛ナリ

是ヲ先キ午前四時三十分ニ至ル時ナカニ突ク間敵三回陣地ニ掘リ
 抵抗シ遂ニ敵軍數回遂ニ第四回ノ凹地ニ竄縮ス第一第三
 回戰闘地ニ至ル敵ノ死者數十名ナリ第四回戰闘地(凹地)
 敵七十名ナリ是概ニ七傷ニ屍軍ヲ残シテ逃ハ(為岐中尉高尾
 午前七時頃東方前哨(鵝卵面)ニ砲火ヲ開始ス

至時九ノ年冬ヲ下ス

第七中隊より一小隊ヲ車馬場附近ニ出シ東方ニ對シ警戒

71

スヤニ

午七時五分、技隊長南門に待た

午時頃枕頭山方面、敵ヲ遠ク敵陣地撃退シ各前哨位置

ニ復ス

午前七時頃、前哨第八中隊より報

第二小哨、枕頭山方面銃聲ヲ聞クト午時、水仙岩方面、

太鼓及銅鑼ヲ打鳴ラヌヲ聞キ其後異状ヲ認メス

午前七時、美ヤ敵ノ并候第二小哨、東方高地に現ハ其時、

二小哨、乗馬者二名ヲ見ヘ自ラ大小火ヲ開始シ敵散乱、

水仙岩西方兵營ニ向テ退却ス

午時、第一小哨、前方に敵兵前進セシ直ニ之ヲ撃退シ金山面東

近衛市團司令部

世書

0537

方高地退却せり此敵兵言ミテ約五百名を引去リ

午前七時より第八中隊ノ報

秋井候七時より第八中隊ノ報曰金山面より西南ノ方向山脈

敵歩哨ノ聲モノ数ノ所アリ赤旗シタハ候是ハ約五百名

敵兵ヲ撃テ射撃セリ

秋第二小隊即ち砲兵掩護隊ノ正面前進シ来リ敵ハ午前七

時より退却ス東南方ニ向テ退却ス

午前八時より敵ハ尽テ退却ス時々青草湖南方敵砲兵陣

地より砲撃スル見

全七時より各隊解散シ各々宿営シ就カニ敵ハ休養中ニ在リ

百餘名アリ

72

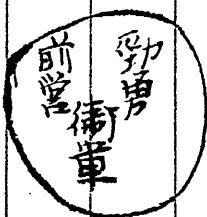
備考

敵ノ携帶銃ハモトシテグラハ山銃ヲモ 関々アルニ「スナイドル」

銃ヲ携帶ス

敵ノ旗ハ專ラ徐ノ字ヲ附ス

兵ノ胸章ハ左ノ如シ



當日騎兵ハ專ラ傳騎ノミ使用ス

新竹枝隊長陸軍歩兵大佐坂井重孝

江青市團司令部

43

0539

東洋館圖書

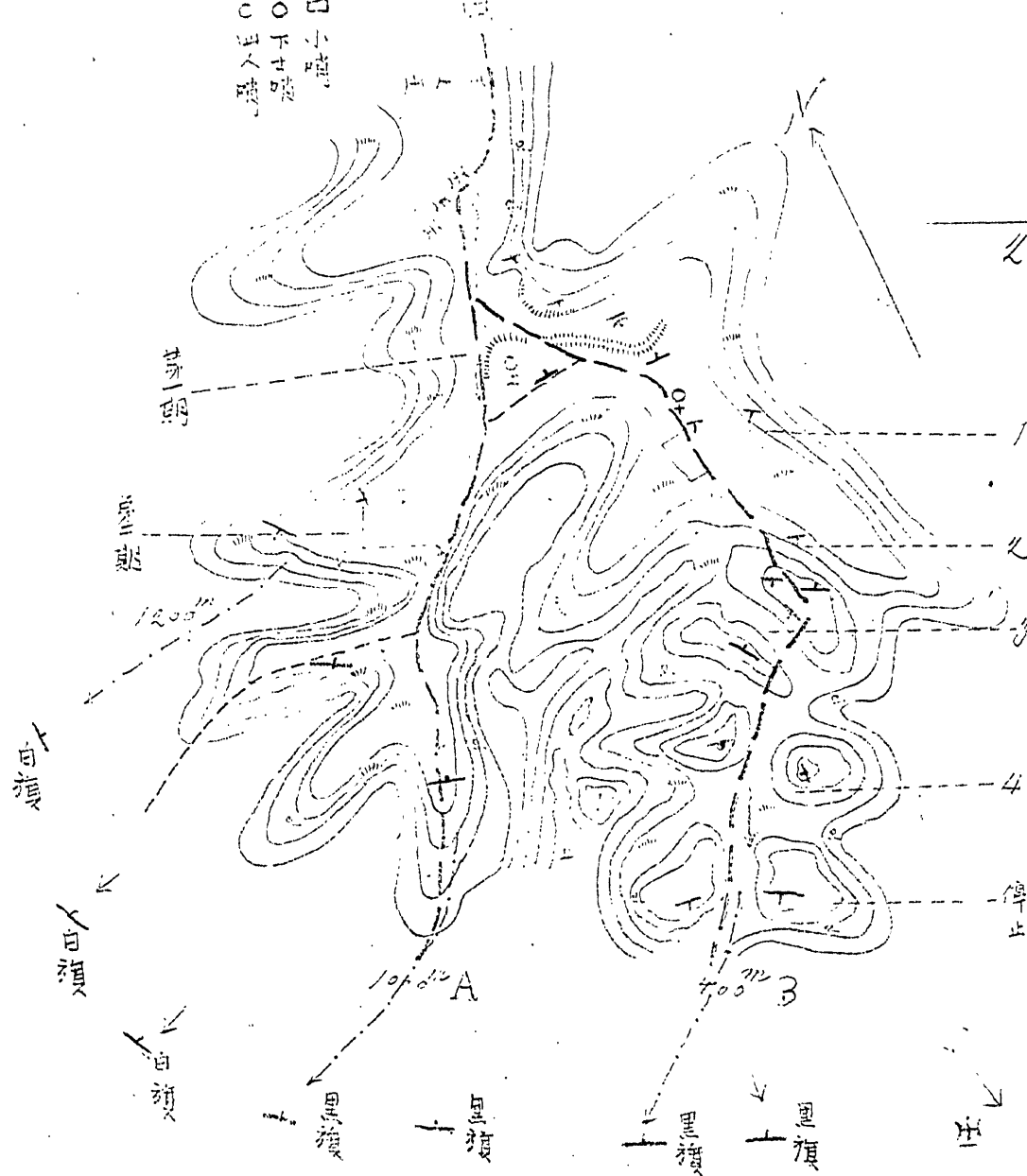
0540

新竹西南頭山戰野畧圖

(大正七年三月廿三日)

○ 山
● 小
○ 山
● 小
○ 山
● 小

1
20000



大正七年三月廿三日

۷۹

近衛師團兵器彈藥損耗表

山

考 備							
	計						
	七						
	一〇九						
	八四三六						
	一						
	名						

0543

七五

明
治二十八年
七月廿三日

近衛師團鹵獲表

利

旗

考